

第二十二條 政府重要機械製造事業ノ發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ重要機械製造事業者ニ對シ重要機械ノ製造ニ關スル技術又ハ研究ニ付他ノ重要機械製造事業者ニ對スル協力ヲ爲シ又ハ他ノ重要機械製造事業者ヨリ協力ヲ受クルコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ
於テ關係者間ニ於テ協議ヲ爲スザ若ハ
爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキ
ハ政府ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ
爲スコトヲ得

第二十七條 重要機械製造事業者ハ前條
ノ規定ニ依リ讓受ヶ又ハ借受ケタル機
械又ハ器具ヲ政府ノ指定スル重要機械
ノ製造以外ノ用途ニ使用スルコトヲ得
ズ但シ政府ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此
ノ限ニ在ラズ

第二十八條 第二十四條若ハ第二十五條
ノ規定ニ依ル裁定又ハ第二十六條ノ規
定ニ依ル決定アリタル場合ニ於テ費用
ノ負擔、對價、讓渡價格又ハ賃料料ニ
付不服アル者ハ其ノ裁定又ハ決定ノ通
知ヲ受ケタル日（裁定又ハ決定ノ通知
ヲ受ケザル者ニ付テハ其ノ公示ノ日）
ヨリ三十日以内ニ通常裁判所ニ出訴ス
ルコトヲ得

第二十九條 第二十二條乃至前條ニ定ム
ルモノノ外裁定及決定、重要機械ノ製
造ニ關スル技術又ハ研究ノ協力、重要
機械ノ製造ニ必要ナル見本機械又ハ圖
面ノ利用、重要機械製造事業者間ノ事
業ノ讓渡又ハ讓受竝ニ重要機械ノ製造
ニ必要ナル機械又ハ器具ノ讓渡又ハ賃
貸ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之
ヲ定ム

第三十條 政府重要機械製造事業ノ發達
ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ
重要機械製造事業者ニ對シ其ノ供給ヲ
受クル部分品ノ種類若ハ數量又ハ供給
者ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
ル設計、原料若ハ材料又ハ部分品若ハ
附屬品ヲ使用スベキコトヲ命ジ又ハ其

ノ使用ヲ制限スルコトヲ得
第三十二條 政府ハ重要機械又ハ其ノ部
分品若ハ附屬品ニ付其ノ規格ヲ定ムル
コトヲ得

一 五百圓以下ノ罰金ニ處ス
二 第三條ノ規定ニ違反シ許可ヲ受ケ
ズシテ重要機械製造事業ヲ營ミタル
者
三 第十條ノ規定ニ依ル罰限ニ違反シ
テ重要機械又ハ其ノ部分品ノ輸入ヲ
爲シタル者
四 附則第一項又ハ第三項ニ掲グル者

第三十三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ重要機械製造事業者ニ對シ其ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ヲ爲スペキコトヲ命ジ又ハ試験若ハ研究ノ目的其ノ他命令ヲ以テ定ムル目的ニ充ツル爲特別ノ積立金ノ積立ヲ命ズルコトヲ得第三十四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ重要機械ノ試験、研究又ハ試作ヲ爲ス者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得第三十五條 重要機械製造事業者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ政府ハ其ノ業務ヲ停止シ若ハ制限シ、第二條ノ許可ヲ取消シ又ハ法人ノ役員ノ解任ヲ爲スコトヲ得第三十六條 第十五條乃至第十七條、第二十五條第一項但書ノ規定ニ該當スル重要機械製造事業ヲ營ム者ニ之ヲ準用ス第二十五條、第二十八條及第二十九條ノ規定ハ第二條第一項但書ノ規定ニ該當スル重要機械製造事業者又ハ第二條第一項但書ノ規定ニ該當スル重要機械製造事業ヲ營ム者ト他ノ重要機械製造事業者又ハ第二條第一項但書ノ規定ニ該當スル重要機械製造事業ヲ營ム者トノ間ニ於ケル事業ノ讓渡又ハ譲受ニ之ヲ準用ス第三十七條 左ノ各號ノ一一ニ該當スル者

ニシテ同項ノ規定ニ依ル範圍ヲ超エ
テ重要機械製造事業ヲ營ミタルモノ
第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者
ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第十二條ノ規定ニ違反シテ設備ヲ
増設シ又ハ變更シタル者
二 第十三條第一項ノ規定ニ違反シテ
事業ヲ讓渡シ、廢止シ又ハ休止シタ
ル者

三 第十四條第一項ノ規定ニ違反シテ
認可ヲ受ケザル事業計畫ヲ實施シ又
ハ事業計畫ノ届出ヲ爲サズ若ハ届出
データル事業計畫ヲ實施セザル者

四 第十四條第二項ノ規定ニ依ル變更
命令ニ違反シテ事業計畫ヲ實施シタ
ル者

五 第十五條第二項（第三十六條ノ規
定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）第十
七條（第三十六條ノ規定ニ依リ準用
スル場合ヲ含ム）第十八條、第十九
條、第二十一條乃至第二十三條又ハ
第三十條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ
タル者

六 第二十七條ノ規定ニ違反シテ機械
又ハ器具ヲ使用シタル者

七 第三十一条（第三十六條ノ規定ニ
依リ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ
依ル命令又ハ制限ニ違反シタル者
八 第三十二條第二項（第三十六條ノ
規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム）ノ

規定ニ違反シテ規格ニ適合セザルモノヲ製造シ又ハ重要機械ノ製造ニ使用シタル者

第三十九條 第十六條第二項(第三十六

條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ命令又ハ處分ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條第一項(第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

第二 第十六條第三項(第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ妨げ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第六條 第十六條第三項(第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル當該官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ妨げ若ハ忌避シ又ハ其ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第四十一條 著業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ第三十七條乃至第三十九條又ハ前條第一號ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出でザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

第四十二條 第三十七條乃至第三十九條及第四十條第一號ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ノ業務ヲ執行スル役員ハ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十三條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 第十五條第一項(第三十六條ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ違反シテ命令ノ定ムル協定又ハ

其ノ變更若ハ廢止ニ付届出ヲ爲サルモル者

二 第三十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シテ積立ヲ爲サル者

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム可不受クベキ重要機械製造事業ヲ營ム者又ハ其ノ事業ヲ承繼シタル者ハ命令ノ定期所ニ依リ勅令ヲ以テ定ムル期間ヲ限リ同條ノ規定ニ拘ラズ本法公布ノ日以前ニ於テ營メル事業ノ範圍(本法施行ノ際現ニ建設工事中ノ設備アル事業ニ付テハ當該設備ニ係ル事業ノ範圍ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ含ム)内ニ於テ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

第一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受クベキ重要機械製造事業ヲ營ム爲本法施行ノ際現ニ其ノ設備ニ建設工事中ニ在ル者又ハ其ノ設備ヲ承繼シタル者ハ命令ノ定期所ニ依リ前項ノ勅令ヲ以テ定ムル期間ヲ限リ同條ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ定ムル範圍内ニ於テ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得

第七條第一項及第四項並ニ第八條中「工作機械製造事業者」ニ改ム

第六條、第十二條、第十八條、第二十條及第二十五條中「工作機械製造會社」ヲ「工作機械製造事業者」ニ改ム

第七條第一項及第四項並ニ第八條中「工作機械製造會社」ヲ「工作機械製造事業者」ニ改ム

第九條第一項中「各事業年度ノ資本金額」ヲ「法人ニ在リテハ各事業年度、個人ニ在リテハ各年ノ資本金額」ニ改ム

第十條第一項中「工作機械製造會社」ヲ「工作機械製造事業者」ニ改ム

第十九條第一項中「工作機械製造事業者」ニ改ム

トヲ得ベキ者ハ「ヲ「前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ニシテ其ノ設備ガ命令ノ定期ムル規模以上ナルモノハ」ニ改メ同條第三項中「前條ノ許可ヲ受ケタル者」ノ下ニシテ第一項ニ掲グモノ」ヲ加ヘ同項ニ左ノ但書ヲ加フ
但シ其ノ設備ガ第一項ノ命令ノ定期ムル規模ニ達セザル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

トヲ得ベキ者ハ「ヲ「前條ノ許可ヲ受クルコトヲ得ベキ者ニシテ其ノ設備ガ命令ノ定期ムル規模以上ナルモノハ」ニ改メ同條第十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム
「工作機械製造事業者ハ命令ノ定期ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ニ之ヲ届出デ又ハ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム
「工作機械製造事業者ハ命令ノ定期ムル所ニ依リ事業計畫ヲ定メ政府ニ之ヲ届出デ又ハ政府ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第十九條第一項中「工作機械製造事業者」ニ改ム

第二十一條ノ三 政府工作機械製造事業
ノ發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムル
トキハ工作機械製造事業者ニ對シ工作
機械ノ製造ニ關スル技術又ハ研究ニ付
他ノ工作機械製造事業者ニ對スル協力
ヲ爲シ又ハ他ノ工作機械製造事業者ヨ
リ協力ヲ受クルコトヲ命ズルコトヲ得
第二十一條ノ四 政府工作機械製造事業
ノ發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムル
トキハ工作機械ノ製造ニ必要ナル見本
機械若ハ圖面ヲ所有シ若ハ所持スル者
ニ對シ工作機械製造事業者ニ對シ利用
セシメ又ハ工作機械製造事業者ニ對シ
之ヲ利用スルコトヲ命ズルコトヲ得但
シ特許又ハ登録實用新案ニ係ルモノニ
付テハ此ノ限ニ在ラズ
第二十一條ノ五 前二條ノ規定ニ依ル命
令アリタル場合ニ於テ費用ノ負擔又ハ
對價ニ付關係者間ニ於テ協議ヲ爲スコ
ト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ政府
之ヲ裁定ス

第二十一條ノ六 政府工作機械製造事業
ノ發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムル
トキハ工作機械製造事業者ニ對シ他ノ
工作機械製造事業者ニ事業ヲ譲渡シ又
ハ他ノ工作機械製造事業者ヨリ事業ヲ
譲受クベキコトヲ命ズルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ
於テ譲渡ノ條件ニ付關係者間ニ於テ協
議ヲ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザル
トキハ政府之ヲ裁定ス

第二十一條ノ七 政府工作機械製造事業
ノ發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムル
トキハ工作機械製造ニ必要ナル器具
又ハ機械ヲ所有シ又ハ所持スル者ニ對
シ其ノ譲渡又ハ賃貸ニ付命令ノ定ムル
所ニ依リ工作機械製造事業者ト協議ヲ
爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第二十一條ノ八 工作機械製造事業者ハ
前條ノ規定ニ依リ讓受ケ又ハ借受ケタ
ル器具又ハ機械ヲ政府ノ指定スル工作
機械ノ製造以外ノ用途ニ使用スルコト
ヲ得ズ但シ政府ノ許可ヲ受ケタル場合
ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條ノ九 第二十一條ノ五若ハ第
二十二條ノ六ノ規定ニ依ル裁定又ハ第
二十一條ノ七ノ規定ニ依ル決定アリタ
ル場合ニ於テ費用ノ負擔、對價、讓渡
價格又ハ賃貸料ニ付不服アル者ハ其ノ
裁定又ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日(裁
定又ハ決定ノ通知ヲ受ケザル者ニ付テ
ハ其ノ公示ノ日)ヨリ三十日以内ニ通
常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十一條ノ十 第二十一條ノ三乃至前
條ニ定ムルモノノ外裁定及決定、工作
機械ノ製造ニ關スル技術又ハ研究ノ協
力、工作機械ノ製造ニ必要ナル見本機
械又ハ圖面ノ利用、工作機械製造事業
者間ノ事業ノ譲渡又ハ讓受竝ニ工作機
械ノ製造ニ必要ナル器具又ハ機械ノ讓
渡又ハ賃貸ニ關シ必要ナル事項ハ勅令
ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 ニ左ノ一號ヲ加フ

三 附則第二項又ハ第三項ニ掲グル者
ニシテ同項ノ規定ニ依ル範圍ヲ超エ
テ工作機械製造事業ヲ營ミタルモノ
ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條ノ十一 政府工作機械製造事
業ノ發達ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ム
ルトキハ工作機械製造事業者ニ對シ其
ノ供給ヲ受クル部分品ノ種類若ハ數量
又ハ供給者ニ付必要ナル命令ヲ爲スコ
トヲ得

第二十一條ノ十二 政府ハ工作機械製造
事業者ニ對シ工作機械ノ製造ニ政府ノ
指定スル設計、原料若ハ材料又ハ部分
品若ハ附屬品ヲ使用スベキコトヲ命ジ
又ハ其ノ使用ヲ制限スルコトヲ得

第二十一條ノ十三 政府ハ工作機械又ハ
其ノ部分品若ハ附屬品ニ付其ノ規格ヲ
定ムルコトヲ得

第二十一條ノ十四 政府ハ命令ノ定ムル
所ニ依リ工作機械製造事業者ニ對シ其
ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ヲ爲スベキ
コトヲ命ジ又ハ試驗若ハ研究ノ目的其
ノ命令ヲ以テ定ムル目的ニ充ツル爲
特別ノ積立金ノ積立ヲ命ズルコトヲ得
ノ他命令ヲ以テ定ムル目的ニ充ツル爲
合スルモノニ非ザレバ之ヲ製造シ又ハ
工作機械ノ製造ニ使用スルコトヲ得ズ
ハ此ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタル者
ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)、第十九條(附則第四項ノ規定ニ依リ
準用スル場合ヲ含ム)、第十九條ノ二乃至
第二十一條ノ四又ハ第二十一條ノ十
ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
ノ規定ニ依リ工作機械製造事業者ニ對シ其
ノ事業ニ屬スル設備ノ償却ヲ爲スベキ
コトヲ命ジ又ハ試驗若ハ研究ノ目的其
ノ命令ヲ以テ定ムル目的ニ充ツル爲
特別ノ積立金ノ積立ヲ命ズルコトヲ得
ノ他命令ヲ以テ定ムル目的ニ充ツル爲
合スルモノニ非ザレバ之ヲ製造シ又ハ
工作機械ノ製造ニ使用スルコトヲ得ズ
ハ此ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタル者
ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ
規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ
規定ニ依ル命令又ハ制限ニ違反シタル
者

九 第二十一條ノ十三第二項(附則第
四項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含
ム)ノ規定ニ違反シテ起格ニ適合セ
ガルモノヲ製造シ又ハ工作機械ノ製
造ニ使用シタル者

八 第二十一條ノ十二(附則第四項ノ
規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ
規定ニ依ル命令又ハ制限ニ違反シタル
者

七 第二十一條ノ八ノ規定ニ違反シテ
起格ニ適合セガルモノヲ製造シ又
ハ工作機械ノ製造ニ使用シタル者

六 第十七條ノ規定ニ違反シ認可ヲ受
けズシテ利益金ノ處分ヲ爲シタル者

五 第十六條ノ二第二項(附則第四項
ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)、
第十九條(附則第四項ノ規定ニ依リ
準用スル場合ヲ含ム)、第十九條ノ二乃至
第二十一條、第二十一條ノ二乃至
第二十一條ノ四又ハ第二十一條ノ十
ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第十六條第二項ノ規定ニ依ル變更
命令ニ違反シテ事業計畫ヲ實施シタ
ル者

三 第十六條第一項ノ規定ニ違反シテ
設シ又ハ變更シタル者

二 第十五條第一項ノ規定ニ違反シテ
事業ヲ譲渡シ、廢止シ又ハ休止シタ
ル者

一 第六條ノ規定ニ違反シテ設備ヲ増
下ニ「(附則第四項ノ規定ニ依リ準用ス
ル場合ヲ含ム)」ヲ加フ

九 第二十一條第一號中「第十八條第一項」
ノ下ニ「(附則第四項ノ規定ニ依リ準用ス
ル場合ヲ含ム)」ヲ加フ

八 第二十一條第一號中「第十八條第一項」
ノ下ニ「(附則第四項ノ規定ニ依リ準用ス
ル場合ヲ含ム)」ヲ加フ

七 第二十一條第一號中「第十八條第一項」
ノ下ニ「(附則第四項ノ規定ニ依リ準用ス
ル場合ヲ含ム)」ヲ加フ

六 第二十一條第一號中「第十八條第一項」
ノ下ニ「(附則第四項ノ規定ニ依リ準用ス
ル場合ヲ含ム)」ヲ加フ

五 第二十一條第一號中「第十八條第一項」
ノ下ニ「(附則第四項ノ規定ニ依リ準用ス
ル場合ヲ含ム)」ヲ加フ

四 第二十一條第一號中「第十八條第一項」
ノ下ニ「(附則第四項ノ規定ニ依リ準用ス
ル場合ヲ含ム)」ヲ加フ

三 第二十一條第一號中「第十八條第一項」
ノ下ニ「(附則第四項ノ規定ニ依リ準用ス
ル場合ヲ含ム)」ヲ加フ

二 第二十一條第一號中「第十八條第一項」
ノ下ニ「(附則第四項ノ規定ニ依リ準用ス
ル場合ヲ含ム)」ヲ加フ

一 第十六條ノ二第二項(附則第四項
ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)
ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ノ
規定ニ違反シテ命令ノ定ムル協定
ル者ハ五百圓以下ノ過料ニ處ス

二 第二十一條ノ十四ノ規定ニ依ル命令ニ違反シテ積立ヲ爲サザル者第三十四條第二項ヲ削ル

附錄

本法施行ノ期日ハ、勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法施行ノ祭規ニ從前ノ第三條第一項用

○政府委員小島新一君演壇ニ登ル
題ト相成リマシタ重要機械製造事業法案及工
業ム者トノ間ニ於ケル事業ノ譲渡又ハ譲
受ニ之ヲ準用ス

院議事速記録第十五號 重要機械製造事業法案外一件 第一讀會 貸家組合法案外二件

作機械製造事業法中改正法律案ニ付テ、提
案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、先づ重要機
械製造事業法案ニ付テ申上ゲマスルガ、申
ス迄モナク、機械工業ハ國防上緊要缺クベ
カラザル事業タルト共ニ、一般産業ノ生產
手段ヲ供給スル事業ト致シマシテ、產業上
ニ於キマシテモ極メテ重要ナル地位ヲ占ム
テ居リマシテ、之ガ發達ノ如何ハ、我が國
防上及產業上重大ナル意義ヲ有スル次第
アリマシテ、機械工業ノ割期的發展ヲ圖リ
マスルコトハ、高度國防國家ヲ完成スル上
ニ於キマシテ最モ緊要ト存ズルノデアリマ
ス、本邦ニ於ケル機械工業ハ、今次事變以
來急激ナル發展ヲ遂ゲテ來タノデアリマス
ルガ、時局上緊要ナル重要機械ニ付キマシ
テハ、其ノ製造技術ニ於テ、將又其ノ製造
能力ニ於キマシテ、未ダ遺憾ト認メラレル
點ガ少クナインデアリマス、即チ重要機械
類ニシテ、未ダ國內ニ於テ自給困難ナルモ
ノガアリマスルノミナラズ、一般ニ國產機械
ノ性能ハ、世界ノ最高水準ニ比シマシテ尙
遜色ノアリマスルコトバ、否ムコトノ出來ナ
イ事實デゴザイマシテ、未ダ重要機械ニ付
キマシテ、海外依存ノ狀態ヲ完全ニ脱却ス
ルノ域ニハ達シテ居ラナイノデアリマス、
斯様ナ次第アリマスルガ故ニ、斯業振興
ノ必要ハ從來ヨリ痛感セラレテ居リマシテ、
自動車及工作機械ノ製造事業ニ付キマシテ
ハ、既ニソレグ單行ノ事業法ヲ制定致シ
マシテモ、其ノ目的達成ニ努メツ、アルノデ
アリマスルガ、特ニ現下ノ時局ニ際シマシ
ス、而シテ重要機械製造事業確立ノ方策ト
致シマシテハ、其ノ特質ニ即應致シマシテ、
適切ナル各種ノ助長方策ヲ講ジ、以テ其ノ
國產化ヲ促進致シマスト共ニ、他面適當ナ
ル指導監督ニ依リマシテ、其ノ製造技術ノ
向上ヲ圖リマスルコトガ緊要ト考ヘル次第
デアリマス、本案ハ此ノ目的ヲ達スルコト
ヲ期スル次第アリマス、次ニ工作機械製
造事業法中改正法律案ニ付テ御説明ヲ申上
ゲマス、工作機械製造事業ガ、國防上緊要
缺クベカラザル事業タルト共ニ、一般機械製
造事業ノ基礎タル工業ト致シマシテ、國防ト
竝ニ產業上極メテ重要ナル意義ヲ有シマス
ルコトハ、茲ニ言ヲ俟タナイ所デアリマシ
テ、現下ノ時局ニ際シマシテ斯業ノ確立振
興ハ蓋シ刻下ノ急務ト存ズル次第アリマス
、工作機械製造事業ニ付キマシテハ、夫
ル第七十三回帝國議會ノ協賛ヲ經マシテ、
昭和十三年七月ヨリ工作機械製造事業法ヲ
施行致シマシテ、斯業ノ急速ナル生産力ノ擴
充、製造技術ノ向上ニ努メテ參ッタノデアリ
マス、然ルニ現行ノ工作機械製造事業法ニ於
キマシテハ、一定規模以上ノ設備ヲ以テ營
業、其ノ後工作機械工場が大イニ増加可制ガ
採ラレ、是等ノ事業ニ付テノミ助長監督ノ規
定ガ適用サレルコトニ相成シテ居ルノデアリ
マスルガ、其ノ後工作機械工場が大イニ増加可
致シマシテ、今日ニ於キマシテハ、現行ノ工作
機械製造事業法ノ適用ヲ受ケル規模ニ達シ
ナイ程度ノ設備ニ依ル工作機械製造事業ガ、
其ノ工場數ニ於キマシテモ、又生産額ニ於キマ
シテモ、相當大ナル數字ニ上ツテ參リマシタ
ノデ、本法律案ニ於キマシテハ、此ノ許可ヲ
受クベキ限度ヲ撤廢致シマシテ、總テノ工
作機械製造事業ニ付テ許可制ヲ採リマシテ
シテモ、相當大ナル數字ニ上ツテ參リマシタ
ノデ、本法律案ニ於キマシテハ、此ノ許可ヲ
受クベキ限度ヲ撤廢致シマシテ、總テノ工
作機械製造事業ニ付キマシテモ必要ト認メラ
レマス、次ニ只今御説明致シマシタ重要
機械製造事業法案中ノ規定デ、工作機械製
造事業ニ付キマシテモ必要ト認メラレマス
モノヲ、工作機械製造事業法中ニ追加ス

○副議長(侯爵佐竹不行忠彦)	日程第三
貸家組合法案	日程第四、住宅團法案
日程第五、醫療保護法案	政府提出、衆院送付、第一讀會、是等ノ三案ヲ一括シ
議題ト爲スコトニ御異議ゴザイマセヌカ	侯爵德川 義親君 侯爵佐竹 義春 伯爵二荒 芳徳君 子爵大河内正敏 子爵曾我 祐邦君 子爵松平 保男 男爵東郷 安君 男爵伊藤 一郎 男爵北大路信明君 西野 元君 倉知 鐵吉 小倉 正恒君 稲畑勝太郎 板谷 宮吉君 米山 梅吉 上野喜左衛門君 諸橋久太郎 永瀬 寅吉
〔異議ナシト呼フ者アリ〕	

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戸澤子爵
動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナ
ト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ朗讀致サ
マス

依リ其ノ經費ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第二十一條 持分ガ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ組合員ノ權利ヲ行使スベキ者一人ヲ定ムルコトヲ要ス組合員ノ權利ヲ行使スベキ者ナキトキハ共有者ニ對スル組合ノ通知又ハ催告ハ其ノ一人ニ對シテ之ヲ爲スヲ以テ足ル

共有者ハ組合ニ對シ連帶シテ組合員ノ義務ヲ負フ

第二十二條 産業組合法第十八條、第十九條及第二十一條乃至第二十四條ノ規定ハ組合員ノ權利義務ニ之ヲ準用ス但シ同法第二十四條中地方長官トアルハ行政官廳トス

第四章 管理

第二十三條 貸家組合ニハ理事及監事ヲ置クベシ

合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員ノ中ヨリ之ヲ選任ス

特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ハ前項ニ該當セザル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ効力ヲ生ゼズ

第一項ノ規定ニ依ル役員ノ外定款ノ定期ム所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

第二十四條 組合員ハ總會ニ於テ各一個ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ三分超エザル範圍内ニ於テ出資口數ニ應ジ二個以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得

第二十五條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ得

ヲ出席ト看做ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スベシ

第二十六條 經費ヲ組合員ニ分賦スル貸

家組合ニ在リテハ其ノ經費ノ收支豫算及

分賦收入方法ハ總會ノ議決ヲ經ベシ

ル

第二十七條 民法第四十四條第一項、第

五十二條第二項、第五十三條乃至第五

十五條、第五十九條、第六十一條第一項、第六十二條、第六十四條及第六

六條並ニ産業組合法第二十六條乃至第

三十一條ノ三、第三十三條、第三十四

條ノ二乃至第三十六條、第三十八條ノ二乃至第四十六條、第四十七條乃至第

四十八條ノ二、第六十條ノ二及第六十

八條ノ規定ハ貸家組合ノ管理ニ之ヲ準

用ス但シ民法第五十九條中主務官廳ト

アリ竝ニ産業組合法第三十九條第三項

及第六十條ノ二中地方長官トアルハ行

政官廳トス

第二十八條 組合員タル資格ヲ有スル者

貸家組合ニ加入セントスルトキハ組合

ハ正當ノ理由ナクシテ加入ニ困難ナル

條件ヲ附シ又ハ其ノ加入ヲ拒ムコトヲ得ズ

第二十九條 貸家ト爲ス目的ヲ以テ家屋

ノ建設ヲ爲サントスル者ハ第一條第二

項ノ規定ニ拘ラズ貸家組合ニ加入スル

コトヲ得

第三十條 組合員ハ命令ノ定ムル所ニ依

リ一定ノ期間前ニ豫告ヲ爲シ貸家組合

ノ承諾ヲ得タル場合ニハ事業年度ノ終

ニ於テ脱退スルコトヲ得

組合ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾

ヲ拒ムコトヲ得ズ

第三十一條 産業組合法第五十一條（第三

三號及第四號ヲ除ク）及第五十二條乃至第五十八條ノ規定ハ組合員ノ脱落ニ

之ヲ準用ス

第六章 解散及清算

第三十二條 貸家組合ハ左ノ事由ニ因リ

一 定款ニ定メタル事由ノ發生

二 總會ノ決議

三 組合ノ合併

四 組合ノ破産

第五章 加入及脫退

第三十三條 民法第七十條竝ニ産業組合

法第六十二條第二項、第六十三條ノ二

乃至第六十五條及第六十七條ノ規定ハ

貸家組合ノ解散ニ、民法第七十三條乃

及第六十二條第二項、第六十三條ノ二

乃至第六十五條及第六十七條ノ規定ハ

第三十六條 行政官廳必要アリト認ムルトキハ貸家組合ニ對シ經費ノ收支豫算、其ノ分賦收入方法、定款又ハ第三條ノ規程ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

第三十七條 貸家組合ノ事業若ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組合ノ行爲が法令、定款若ハ行政官廳ノ命令ニ違反シタルトキ若ハ公益ヲ害スル虞アルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 貸家組合聯合會ハ所屬ノ貸

家組合及貸家組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲之ヲ設立スルコトヲ得

聯合會ハ貸家組合又ハ貸家組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十九條 貸家組合聯合會ヲ設立セン

トスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所

屬ノ各組合及聯合會ニ於テ選任スル創立委員ハ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ニ設立ノ認可ヲ申請スベシ

聯合會ハ法人トス

第八章 貸家組合聯合會

第三十八條 貸家組合聯合會ハ所屬ノ貸

家組合及貸家組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲之ヲ設立スルコトヲ得

聯合會ハ貸家組合又ハ貸家組合聯合會ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十九條 貸家組合聯合會ヲ設立セン

トスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所

屬ノ各組合及聯合會ニ於テ選任スル創立委員ハ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ニ設立ノ認可ヲ申請スベシ

聯合會ハ法人トス

第三十九條 貸家組合聯合會ヲ設立セン

トスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ所

屬ノ各組合及聯合會ニ於テ選任スル創立委員ハ創立委員會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ行政官廳ニ設立ノ認可ヲ申請スベシ

役員トアルハ所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事、第十五條第一項中設立同二十三條第二項中組合員又ハ組合員タル法人ノ業務ヲ執行スル役員トアルハ所屬ノ組合及聯合會ノ理事又ハ監事トス

第九章 貸室組合及貸室組合聯合會

第四十一条 貸室組合ハ其ノ組合員ニ對シ貸室ノ供給ヲ圓滑ナラシメ及組合員ノ貸室ノ經營ノ適正ヲ圖ルコトヲ目的トス

貸室組合ハ貸室ノ所有者及貸室ノ所有者ニ非ズシテ貸室ノ經營ヲ爲ス者ヲ以テ之ヲ組織ス

貸室組合ハ法人トス

貸家組合ニ關スル規定ハ貸室組合ニ之ヲ準用ス

貸室及貸室ノ所有者ニ非ズシテ貸室ノ經營ヲ爲ス者ノ範圍ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二条 貸室組合聯合會ハ所屬ノ貸室組合及貸室組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲之ヲ設立スルコトヲ得

聯合會ハ法人トス

貸家組合聯合會ニ關スル規定ハ貸室組合聯合會ニ於テ之ヲ準用ス

第十章 罰則

第四十三条 左ノ場合ニ於テハ貸家組合ノ理事、監事又ハ清算人ヲ五百圓以下ノ過料ニ處ス

一 本法ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クベキ場合ニ於テ其ノ認可ヲ受ケザルトキ

二 本法ニ基キテ發スル勅令ニ違反シ

登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

三 行政官廳若ハ裁判所又ハ總會若ハ總代會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

四 本法ニ依リ行政官廳又ハ裁判所ノ爲ス検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタルトキ

五 本法ニ依リ行政官廳ノ徵スル報告ヲ差出サズ其ノ他行政官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハザルトキ

六 本法ニ違反シ總會又ハ總代會ノ招集ヲ怠リタルトキ

七 本法ニ違反シ書類ヲ備置カザルトキ、其ノ書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

八 本法ニ違反シ組合員ノ持分ヲ拂戾シタルトキ

九 本法ニ違反シ組合ガ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ

十 本法ニ違反シ破産ノ宣告ヲ請求セタルトキ

十一 本法ニ違反シ出資一口ノ金額若ハ保證金額ヲ減少シ、第三十一條ノ規定ニ依リ準用スル産業組合法第五十八條ノ責任期間ノ短縮ヲ爲シ又ハ組合ノ合併ヲ爲シタルトキ

十二 本法ニ違反シ公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタルトキ

十三 清算ノ場合ニ於テ本法ニ違反シ辨濟ヲ爲シ又ハ組合財產ノ分配ヲ爲シタルトキ

十四 法令又ハ定款ニ違反シ剩餘金ヲ處分シタルトキ

十五 組合ノ目的ニ非ザル營利事業ヲ

爲シタルトキ

第四十四條 第六條第二項ノ規定(第四十條、第四十一條第四項及第四十二條)

第四項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ過失料ニ處ス

第四十五條 第五條ノ規定(第四十條、第四十一條第四項及第四十二條第四項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ一千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 前條ノ罰則ハ其ノ者方法人居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ貸家又ハ貸室ノ經營ニ關シ前項ノ違反行為ヲ爲シタルトキハ其ノ法人又ハ人ハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第四十七条 前條ノ罰則ハ其ノ者方法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四十八条 正當ノ理由ナクシテ第三十五條第一項ノ規定(第四十條、第四十一條第四項及第四十二條第四項ノ規定ニ依リ準用スル場合ヲ含ム)ニ依ル當該

第五十三條 第四十四條ノ規定ハ前條ノ期間内之ヲ前條ニ掲グル者ニ適用セズ

第五十二条 本法施行ノ際貸家組合ニ非シタルトキハ其ノ名稱ヲ用フル者ハ本法施行後六月以内ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十三条 第四十四條ノ規定ハ前條ノ期間内之ヲ前條ニ掲グル者ニ適用セズ

第五十四条 登錄稅法中左ノ通改正ス第十九條中「第一號」ヲ下ニ「第十一號」ノ三、「ヲ加フ

同條第七號中「又ハ自動車運送事業組合聯合會」ヲ「自動車運送事業組合會、貸家組合、貸家組合聯合會、貸室組合又ハ貸室組合聯合會」ニ、「又ハ自動車交通事業法」ヲ「自動車交通事業法又ハ貸家組合法」ニ改ム

十一ノ二 貸家組合又ハ貸室組合力

貸家又ハ貸室用建物ノ供給ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

十一ノ三 貸家若ハ貸室用建物又ハ其ノ用地ニ付貸家組合員又ハ貸室組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取扱ノ登記

ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十九條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十条 第四十八條ニ掲グル罪ハ刑法第49條ノ例ニ從フ

第五十一条 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二条 本法施行ノ際貸家組合ニ非シタルトキハ其ノ名稱ヲ用フル者ハ本法施行後六月以内ニ其ノ名稱ヲ變更スルコトヲ要ス

第五十三条 第四十四條ノ規定ハ前條ノ期間内之ヲ前條ニ掲グル者ニ適用セズ

第五十四条 登錄稅法中左ノ通改正ス第十九條中「第一號」ヲ下ニ「第十一號」ノ三、「ヲ加フ

同條第七號中「又ハ自動車運送事業組合聯合會」ヲ「自動車運送事業組合會、貸家組合、貸室組合又ハ貸室組合聯合會」ニ、「又ハ自動車交通事業法」ヲ「自動車交通事業法又ハ貸家組合法」ニ改ム

十一ノ二 貸家組合又ハ貸室組合力

貸家又ハ貸室用建物ノ供給ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

十一ノ三 貸家若ハ貸室用建物又ハ其ノ用地ニ付貸家組合員又ハ貸室組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取扱ノ登記

第五十五条 印紙稅法中左ノ通改正ス

第四條 第一項第十二號中「又ハ自動車
運送事業組合聯合會」ヲ「自動車運送
事業組合聯合會 貸家組合 貸家組合
聯合會 貸家組合又ハ貸室組合聯合會
會」ニ改ム

第五十六條 特別法人稅法中左ノ通改正正

第二條第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ
一ノ二 貸家組合 貸家組合聯合會
貸室組合及貸室組合聯合會

住宅營團法案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

貴族院議長 小山 松壽
衆議院議長 伯爵松平賴壽殿

昭和十六年二月十五日

第七條 住宅營團ハ其ノ住宅及前條第
一章 總則
第一條 住宅營團ハ勞務者其ノ他庶民ノ
住宅ノ供給ヲ圖ルコトヲ目的トス

住宅營團法案
第一條 住宅營團ハ勞務者其ノ他庶民ノ
住宅ノ供給ヲ圖ルコトヲ目的トス

第二條 住宅營團ハ主タル事務所ヲ東京
市ニ置ク

第三條 住宅營團ノ資本金ハ一億圓トス
第四條 政府ハ一億圓ヲ住宅營團ニ出資
スペシ

政府ハ土地ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコ
トヲ得

第五條 住宅營團ハ定款ヲ以テ左ノ事項
ヲ規定スベシ

第一項 目的
二 名稱
三 事務所ノ所在地

四 資本金額及資產ニ關スル事項

五 役員及會議ニ關スル事項
六 業務及其ノ執行ニ關スル事項
七 住宅債券ノ發行ニ關スル事項
八 會計ニ關スル事項
九 公告ノ方法
十 定款變更ノ方法

定款ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更
スルコトヲ得
第六條 住宅營團ハ勅令ノ定ムル所ニ依
リ登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登
記ノ後ニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對
抗スルコトヲ得ズ

第七條 住宅營團ニハ所得稅、法人稅及
營業稅ヲ課セズ

第八條 住宅營團ノ業務ヲ掌理ス
北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズ
ベキモノハ住宅營團ノ事業、建物ノ建
設若ハ取得又ハ土地ノ取得ニ對シテハ
地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ住宅營
團ノ事業ニ對シテハ特別ノ事情ニ基キ
内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル
場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 住宅營團ニ付解散ヲ必要トスル
事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ
關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 民法第四十四條、第五十條、第
五十四條、第五十五條及第五十七條並
ニ非訟事件手續法第三十五條第一項ノ
規定ハ住宅營團ニ之ヲ準用ス

第十一條 住宅營團ニ付解散ヲ必要トスル
事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ
關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 住宅營團ニ付解散ヲ必要トスル
事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ
關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 理事長、副理事長及理事ハ定
期ハ一年トス

第十四條 理事長、副理事長及理事ハ他
ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務
大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ
在ラズ

第十五條 住宅營團ニ評議員若干人ヲ置
キ主務大臣之ヲ命ズ

第十六條 住宅營團ハ左ノ業務ヲ行フ
一 住宅ノ建設及經營
二 住宅ノ建設及經營ノ受託
三 一國地ノ住宅ノ建設又ハ經營ノ場
合ニ於ケル水道、乘合自動車、市場、

營團ヲ代表シ理事長ヲ輔佐シテ住宅營
團ノ業務ヲ掌理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ
職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキハ其ノ
職務ヲ行フ

監事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ住宅營團
ヲ代表シ監事長及副理事長ヲ輔佐シテ
住宅營團ノ業務ヲ掌理ス

理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ理事長及
副理事長共ニ事故アルトキハ其ノ職務
ヲ代理シ理事長及副理事長共ニ缺員ノ
トキハ其ノ職務ヲ行フ

監事ハ住宅營團ノ業務ヲ監査ス
監事ハ任期ハ二年トス

第十二條 理事長、副理事長、理事及監
事ハ主務大臣之ヲ命ズ

第十三條 理事長、副理事長及理事ハ定
期ハ三年、監事ハ任期ハ二年トス

第十四條 理事長、副理事長及理事ハ他
ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務
大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ
在ラズ

第十五條 住宅營團ニ評議員若干人ヲ置
キ主務大臣之ヲ命ズ

第十六條 住宅營團ハ左ノ業務ヲ行フ
一 住宅ノ建設及經營
二 住宅ノ建設及經營ノ受託
三 一國地ノ住宅ノ建設又ハ經營ノ場
合ニ於ケル水道、乘合自動車、市場、

食堂、浴場、保育所、授産場、集會
所其ノ他ノ施設ノ建設及經營

四 住宅ノ建設ノ爲ニスル資金ノ貸付

五 住宅ノ賣買及貸借ノ仲介

第六條 前各號ノ業務ニ附帶スル事業

第七條 住宅營團ハ其ノ住宅及前條第
一章 總則
第一條 住宅營團ハ勞務者其ノ他庶民ノ
住宅ノ供給ヲ圖ルコトヲ目的トス

第八條 住宅營團ノ業務ヲ掌理ス
北海道、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズ
ベキモノハ住宅營團ノ事業、建物ノ建
設若ハ取得又ハ土地ノ取得ニ對シテハ
地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ但シ住宅營
團ノ事業ニ對シテハ特別ノ事情ニ基キ
内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケタル
場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 住宅營團ニ付解散ヲ必要トスル
事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ
關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 民法第四十四條、第五十條、第
五十四條、第五十五條及第五十七條並
ニ非訟事件手續法第三十五條第一項ノ
規定ハ住宅營團ニ之ヲ準用ス

第十一條 住宅營團ニ付解散ヲ必要トスル
事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ
關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 住宅營團ニ付解散ヲ必要トスル
事由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ
關シテハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 理事長、副理事長及理事ハ定
期ハ一年トス

第十四條 理事長、副理事長及理事ハ他
ノ職業ニ從事スルコトヲ得ズ但シ主務
大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ
在ラズ

第十五條 住宅營團ニ評議員若干人ヲ置
キ主務大臣之ヲ命ズ

第十六條 住宅營團ハ左ノ業務ヲ行フ
一 住宅ノ建設及經營
二 住宅ノ建設及經營ノ受託
三 一國地ノ住宅ノ建設又ハ經營ノ場
合ニ於ケル水道、乘合自動車、市場、

官報總外 昭和十六年二月十八日 資本公債記録第十五號 貸家組合法案外二件

第二十二條 政府ハ住宅債券ノ元本ノ償
還及利息ノ支拂ニ付保證スルコトヲ得

第二十三條 住宅債券ハ賣出ノ方法ヲ以

テ之ヲ發行スルコトヲ得
第二十四條 住宅營團ニ於テ住宅債券ヲ
發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可
ヲ受クベシ

第二十五條 住宅債券ノ消滅時効ハ元金
ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五
年ヲ以テ完成ス

第二十六條 住宅債券ノ所有者ハ住宅營
團ノ財產ニ付他ノ債權者ニ先チテ自己
ノ債券ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス
前項ノ規定ハ民法上ノ一般ノ先取特權
ノ行使ヲ妨グルコトヲ得ズ

第二十七條 所得稅法及有價證券移轉稅
法中國債以外ノ公債ニ關スル規定ハ住
宅債券ニ之ヲ準用ス

第二十八條 本章ニ規定スルモノヲ除ク
ノ外住宅債券ニ關シ必要ナル事項ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 會計

第二十九條 住宅營團ノ事業年度ハ毎年
四月ヨリ翌年三月迄トス

第三十條 住宅營團ハ毎事業年度ニ於ケ
ル剩餘金中ヨリ勅令ヲ以テ定ムル積立
金ヲ控除シテ猶残額アルトキハ剩餘金
ノ配當ヲ爲スコトヲ得但シ拂込ミタル
出資額ニ對シ年三分五厘ノ割合ヲ超ニ
ルコトヲ得ズ

第三十一條 住宅營團ハ左ノ方法ニ依ル
ノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ
得ズ

一 國債、地方債又ハ主務大臣ノ認可
ヲ受ケタル有價證券ノ取得ヲ爲スコ

二 大藏省預金部若ハ銀行ヘノ預金又
ハ郵便貯金ト爲スコト

第三十二條 住宅營團ハ設立ノ時及每事
業年度ノ初ニ於テ財產目錄、貸借對照
表及損益計算書ヲ作成シ定款ト共ニ之

テ之ヲ發行スルコトヲ得
第二十四條 住宅營團ニ於テ住宅債券ヲ
發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可
ヲ受クベシ

第二十五條 住宅債券ノ消滅時効ハ元金
ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五
年ヲ以テ完成ス

第二十六條 住宅債券ノ所有者ハ住宅營
團ニ於テ住宅債券ノ消滅時効ハ元金
ニ在リテハ十五年、利子ニ在リテハ五
年ヲ以テ完成ス

第三十三條 住宅營團ハ主務大臣ノ認可
ヲ受クベシ

第三十四條 住宅營團ハ主務大臣ノ認可
ヲ受クルニ非ザレバ剩餘金ノ處分ヲ爲
スコトヲ得ズ

第三十五條 住宅營團ハ毎事業年度ノ初
ニ於テ事業計畫ヲ定メ主務大臣ノ認可
ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦
同ジ

第三十六條 主務大臣ハ住宅營團ニ對シ
業務及財產ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシ
メ、檢查ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル
命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
五 第三十七條 第二項又ハ第三項ノ規
定ニ依ル住宅營團監理官ノ檢查ヲ拒
ミ、妨げ若ハ忌避シ又ハ其ノ命ズル
報告ヲ爲サザルトキ

六 第三十七條 第二項又ハ第三項ノ規
定ニ依ル住宅營團監理官ノ檢查ヲ拒
ミ、妨げ若ハ忌避シ又ハ其ノ命ズル
報告ヲ爲サザルトキ

第三十八條 住宅營團ハ何時ニテモ住宅營團
ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢查スルコトヲ
得
一 住宅營團監理官ハ必要アリト認ムルト
キハ何時ニテモ住宅營團ニ命ジテ業務
及財產ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得
二 住宅營團監理官ハ住宅營團ノ諸般ノ會
議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得
三 第三十二條 ノ規定ニ違反シ書類ヲ
備置カザルトキ、其ノ書類ニ記載ス
ベキ事項ヲ記載セズ若ハ不正ノ記載
ヲ爲シタルトキ又ハ正當ノ事由ナク
シテ其ノ閑覽ヲ拒ミタルトキ

ノ第一回ノ拂込ヲ稟請スベシ

第四十六條 出資ノ第一回ノ拂込アリタ
ルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務
所受クベシ

第四十七條 住宅營團理事長ニ引繼グベシ

所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リ
テ成立ス

第四十八條 登錄稅法中左ノ通改正ス

第十九條 第七號中「蠶絲共同施設組合」
ノ上ニ「住宅營團」ヲ、「蠶絲業法」ノ上
ニ「住宅營團法」ヲ加フ

同條第十八號中「庶民金庫」ノ下ニ「又
ハ住宅營團」ヲ加ヘ「業務」ヲ「事務所」
ニ改ム

第四十九條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第七號ノ前ニ左ノ一號ヲ加フ

六ノ四 住宅營團ノ業務ニ關スル證
書帳簿及住宅債券

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十五日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 小山 松壽

醫療保護法案

第一條 政府ハ本法ニ依リ醫療保護事業
ヲ管理ス

第二條 本法ニ於テ醫療保護事業ト稱ス
ルハ貧困ノ爲生活困難ニシテ醫療又ハ
助産ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ醫
療券ヲ發行シテ醫療又ハ助産ヲ受ケシ

ノ第一回ノ拂込ヲ稟請スベシ

第四十六條 出資ノ第一回ノ拂込アリタ
ルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務
所受クベシ

第四十七條 住宅營團理事長ニ引繼グベシ

所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リ
テ成立ス

第四十八條 登錄稅法中左ノ通改正ス

第十九條 第七號中「蠶絲共同施設組合」
ノ上ニ「住宅營團」ヲ、「蠶絲業法」ノ上
ニ「住宅營團法」ヲ加フ

同條第十八號中「庶民金庫」ノ下ニ「又
ハ住宅營團」ヲ加ヘ「業務」ヲ「事務所」
ニ改ム

第四十九條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第七號ノ前ニ左ノ一號ヲ加フ

六ノ四 住宅營團ノ業務ニ關スル證
書帳簿及住宅債券

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十五日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 小山 松壽

醫療保護法案

第一條 政府ハ本法ニ依リ醫療保護事業
ヲ管理ス

第二條 本法ニ於テ醫療保護事業ト稱ス
ルハ貧困ノ爲生活困難ニシテ醫療又ハ
助産ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ醫
療券ヲ發行シテ醫療又ハ助産ヲ受ケシ

ノ第一回ノ拂込ヲ稟請スベシ

第四十六條 出資ノ第一回ノ拂込アリタ
ルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務
所受クベシ

第四十七條 住宅營團理事長ニ引繼グベシ

所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リ
テ成立ス

第四十八條 登錄稅法中左ノ通改正ス

第十九條 第七號中「蠶絲共同施設組合」
ノ上ニ「住宅營團」ヲ、「蠶絲業法」ノ上
ニ「住宅營團法」ヲ加フ

同條第十八號中「庶民金庫」ノ下ニ「又
ハ住宅營團」ヲ加ヘ「業務」ヲ「事務所」
ニ改ム

第四十九條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第七號ノ前ニ左ノ一號ヲ加フ

六ノ四 住宅營團ノ業務ニ關スル證
書帳簿及住宅債券

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十五日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 小山 松壽

醫療保護法案

第一條 政府ハ本法ニ依リ醫療保護事業
ヲ管理ス

第二條 本法ニ於テ醫療保護事業ト稱ス
ルハ貧困ノ爲生活困難ニシテ醫療又ハ
助產ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ醫
療券ヲ發行シテ醫療又ハ助產ヲ受ケシ

ノ第一回ノ拂込ヲ稟請スベシ

第四十六條 出資ノ第一回ノ拂込アリタ
ルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務
所受クベシ

第四十七條 住宅營團理事長ニ引繼グベシ

所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リ
テ成立ス

第四十八條 登錄稅法中左ノ通改正ス

第十九條 第七號中「蠶絲共同施設組合」
ノ上ニ「住宅營團」ヲ、「蠶絲業法」ノ上
ニ「住宅營團法」ヲ加フ

同條第十八號中「庶民金庫」ノ下ニ「又
ハ住宅營團」ヲ加ヘ「業務」ヲ「事務所」
ニ改ム

第四十九條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第七號ノ前ニ左ノ一號ヲ加フ

六ノ四 住宅營團ノ業務ニ關スル證
書帳簿及住宅債券

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十五日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 小山 松壽

醫療保護法案

第一條 政府ハ本法ニ依リ醫療保護事業
ヲ管理ス

第二條 本法ニ於テ醫療保護事業ト稱ス
ルハ貧困ノ爲生活困難ニシテ醫療又ハ
助產ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ醫
療券ヲ發行シテ醫療又ハ助產ヲ受ケシ

ノ第一回ノ拂込ヲ稟請スベシ

第四十六條 出資ノ第一回ノ拂込アリタ
ルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務
所受クベシ

第四十七條 住宅營團理事長ニ引繼グベシ

所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リ
テ成立ス

第四十八條 登錄稅法中左ノ通改正ス

第十九條 第七號中「蠶絲共同施設組合」
ノ上ニ「住宅營團」ヲ、「蠶絲業法」ノ上
ニ「住宅營團法」ヲ加フ

同條第十八號中「庶民金庫」ノ下ニ「又
ハ住宅營團」ヲ加ヘ「業務」ヲ「事務所」
ニ改ム

第四十九條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第七號ノ前ニ左ノ一號ヲ加フ

六ノ四 住宅營團ノ業務ニ關スル證
書帳簿及住宅債券

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十五日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 小山 松壽

醫療保護法案

第一條 政府ハ本法ニ依リ醫療保護事業
ヲ管理ス

第二條 本法ニ於テ醫療保護事業ト稱ス
ルハ貧困ノ爲生活困難ニシテ醫療又ハ
助產ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ醫
療券ヲ發行シテ醫療又ハ助產ヲ受ケシ

ノ第一回ノ拂込ヲ稟請スベシ

第四十六條 出資ノ第一回ノ拂込アリタ
ルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務
所受クベシ

第四十七條 住宅營團理事長ニ引繼グベシ

所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リ
テ成立ス

第四十八條 登錄稅法中左ノ通改正ス

第十九條 第七號中「蠶絲共同施設組合」
ノ上ニ「住宅營團」ヲ、「蠶絲業法」ノ上
ニ「住宅營團法」ヲ加フ

同條第十八號中「庶民金庫」ノ下ニ「又
ハ住宅營團」ヲ加ヘ「業務」ヲ「事務所」
ニ改ム

第四十九條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第七號ノ前ニ左ノ一號ヲ加フ

六ノ四 住宅營團ノ業務ニ關スル證
書帳簿及住宅債券

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十五日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 小山 松壽

醫療保護法案

第一條 政府ハ本法ニ依リ醫療保護事業
ヲ管理ス

第二條 本法ニ於テ醫療保護事業ト稱ス
ルハ貧困ノ爲生活困難ニシテ醫療又ハ
助產ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ醫
療券ヲ發行シテ醫療又ハ助產ヲ受ケシ

ノ第一回ノ拂込ヲ稟請スベシ

第四十六條 出資ノ第一回ノ拂込アリタ
ルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務
所受クベシ

第四十七條 住宅營團理事長ニ引繼グベシ

所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リ
テ成立ス

第四十八條 登錄稅法中左ノ通改正ス

第十九條 第七號中「蠶絲共同施設組合」
ノ上ニ「住宅營團」ヲ、「蠶絲業法」ノ上
ニ「住宅營團法」ヲ加フ

同條第十八號中「庶民金庫」ノ下ニ「又
ハ住宅營團」ヲ加ヘ「業務」ヲ「事務所」
ニ改ム

第四十九條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第七號ノ前ニ左ノ一號ヲ加フ

六ノ四 住宅營團ノ業務ニ關スル證
書帳簿及住宅債券

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十五日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 小山 松壽

醫療保護法案

第一條 政府ハ本法ニ依リ醫療保護事業
ヲ管理ス

第二條 本法ニ於テ醫療保護事業ト稱ス
ルハ貧困ノ爲生活困難ニシテ醫療又ハ
助產ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ醫
療券ヲ發行シテ醫療又ハ助產ヲ受ケシ

ノ第一回ノ拂込ヲ稟請スベシ

第四十六條 出資ノ第一回ノ拂込アリタ
ルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務
所受クベシ

第四十七條 住宅營團理事長ニ引繼グベシ

所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リ
テ成立ス

第四十八條 登錄稅法中左ノ通改正ス

第十九條 第七號中「蠶絲共同施設組合」
ノ上ニ「住宅營團」ヲ、「蠶絲業法」ノ上
ニ「住宅營團法」ヲ加フ

同條第十八號中「庶民金庫」ノ下ニ「又
ハ住宅營團」ヲ加ヘ「業務」ヲ「事務所」
ニ改ム

第四十九條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第七號ノ前ニ左ノ一號ヲ加フ

六ノ四 住宅營團ノ業務ニ關スル證
書帳簿及住宅債券

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十五日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 小山 松壽

醫療保護法案

第一條 政府ハ本法ニ依リ醫療保護事業
ヲ管理ス

第二條 本法ニ於テ醫療保護事業ト稱ス
ルハ貧困ノ爲生活困難ニシテ醫療又ハ
助產ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ醫
療券ヲ發行シテ醫療又ハ助產ヲ受ケシ

ノ第一回ノ拂込ヲ稟請スベシ

第四十六條 出資ノ第一回ノ拂込アリタ
ルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務
所受クベシ

第四十七條 住宅營團理事長ニ引繼グベシ

所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リ
テ成立ス

第四十八條 登錄稅法中左ノ通改正ス

第十九條 第七號中「蠶絲共同施設組合」
ノ上ニ「住宅營團」ヲ、「蠶絲業法」ノ上
ニ「住宅營團法」ヲ加フ

同條第十八號中「庶民金庫」ノ下ニ「又
ハ住宅營團」ヲ加ヘ「業務」ヲ「事務所」
ニ改ム

第四十九條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第七號ノ前ニ左ノ一號ヲ加フ

六ノ四 住宅營團ノ業務ニ關スル證
書帳簿及住宅債券

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十五日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 小山 松壽

醫療保護法案

第一條 政府ハ本法ニ依リ醫療保護事業
ヲ管理ス

第二條 本法ニ於テ醫療保護事業ト稱ス
ルハ貧困ノ爲生活困難ニシテ醫療又ハ
助產ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ醫
療券ヲ發行シテ醫療又ハ助產ヲ受ケシ

ノ第一回ノ拂込ヲ稟請スベシ

第四十六條 出資ノ第一回ノ拂込アリタ
ルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務
所受クベシ

第四十七條 住宅營團理事長ニ引繼グベシ

所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スニ因リ
テ成立ス

第四十八條 登錄稅法中左ノ通改正ス

第十九條 第七號中「蠶絲共同施設組合」
ノ上ニ「住宅營團」ヲ、「蠶絲業法」ノ上
ニ「住宅營團法」ヲ加フ

同條第十八號中「庶民金庫」ノ下ニ「又
ハ住宅營團」ヲ加ヘ「業務」ヲ「事務所」
ニ改ム

第四十九條 印紙稅法中左ノ通改正ス

第五條第七號ノ前ニ左ノ一號ヲ加フ

六ノ四 住宅營團ノ業務ニ關スル證
書帳簿及住宅債券

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十五日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

衆議院議長 小山 松壽

醫療保護法案

第一條 政府ハ本法ニ依リ醫療保護事業
ヲ管理ス

第二條 本法ニ於テ醫療保護事業ト稱ス
ルハ貧困ノ爲生活困難ニシテ醫療又ハ
助產ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ醫
療券ヲ發行シテ醫療又ハ助產ヲ受ケシ

ノ第一回ノ拂込ヲ稟請スベシ

第四十六條 出資ノ第一回ノ拂込アリタ
ルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務
所受クベシ

ムル事業ヲ謂ヒ事業者ト稱スルハ醫療

保護事業ヲ行フ者ヲ謂フ
第三條 市町村及主務大臣ノ指定スル者ハ事業者トス

第四條 道府縣及主務大臣ノ指定スル者ハ事業者ト爲ルコトヲ得

第五條 前二條ニ掲グ者ニ非ザル者事業者タラントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ

第六條 事業者ハ醫療保護事業ヲ行フ爲診療所、產院其ノ他適當ナル施設(以下施設ト稱ス)ヲ經營スルコトヲ得

主務大臣必要アリト認ムルトキハ事業者ニ對シ施設ノ經營ヲ命ズルコトヲ得但シ他ノ法令ニ依リ施設ノ經營ヲ命ズルコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 事業者ハ施設ニ於ケル醫療又ハ助産ニ關シ必要ナル附帶事業(以下附帶事業ト稱ス)ヲ行フコトヲ得

主務大臣必要アリト認ムルトキハ施設ヲ受クルコトヲ得

第八條 事業者ニ對シ附帶事業ヲ行フコトヲ命ズルコトヲ得

附帶事業ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 事業者ニ對シ施設又ハ附帶事業ノ讓渡ニ付他ノ事業者ト協議ヲ爲スコトヲ命ズルコトヲ得

事業者前項ノ協議ヲ爲サズ若ハ爲スコト能ハズ又ハ協議調ハザルトキハ主務大臣ハ當該事項ニ付必要ナル決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定中對價ニ付不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日(決定ノ通知ヲ受ケザル者ニ付テハ其ノ公示ノ日)ヨリ三十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル命令及第二項ノ決定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之

第九條 事業者醫療保護事業ヲ廢止セン
第十條 本法ニ定ムルモノノ外醫療保護事業又ハ施設若ハ附帶事業ノ開始、休止、變更、廢止其ノ他醫療保護事業又ハ施設若ハ附帶事業ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 事業者ハ左ノ各號ノ一一該當スル者ニシテ他ノ法令ニ依リ醫療又ハ助産ヲ受クルコトヲ得

醫療券ヲ發行シテ其ノ疾病、傷痍又ハ分娩ニ付醫療又ハ助産ヲ受ケシムベシ

第一 救護法又ハ母子保護法ニ依リ救護又ハ扶助ヲ受クル者

二 前號ニ掲グ者ノ外貧困ノ爲生活困難ニシテ醫療又ハ助産ヲ受クルコトヲ能ハザル者(扶養義務者ニ於テ醫療又ハ助産ヲ受ケシムルコトヲ得ル者ヲ除ク但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ)

前項ノ規定ニ依リ發行スベキ醫療券ハ市町村ガ事業者タル場合ヲ除クノ外第

第十二條 前條第一項第二號ニ掲グ者ノ認定ハ其ノ居住地ナキトキ又ハ居住地分明ナラザルトキハ現在地ノ市町村長ヲ行

第十三條 事業者ハ左ノ各號ノ一一該當スル者ニシテ又ハ扶助スル費用ニ付クベシ

第一正當ノ理由ナクシテ醫療又ハ助產

ムルコトヲ得

第二十四條 道府縣、市町村其ノ他ノ公團體ハ左ニ掲グ土地又ハ建物ニ對シテハ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ズ但シ有料ニテ之ヲ使用セシム者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一 主トシテ醫療保護事業又ハ施設若ハ附帶事業ノ用ニ供スル建物

第二十條 事業者ハ第十一條ノ規定ニ依リ發行シタル醫療券ニ依ル醫療又ハ助產

第三條 第十九條 方面委員令ニ依ル方面委員ハ命令ノ定ムル所ニ依リ醫療保護事業ニ關スル事務ニ付市町村長ヲ補助スベシ

第二十一條 第十九條ノ規定ニ依リ方面委員が職務ヲ行フ爲必要ナル費用ハ市町村ノ負擔トス

第二十二條 國庫ハ事業者ニ對シ勅令ノ定ムル所ニ依リ左ノ諸費ニ付其ノ二分ノ一ヲ補助ス但シ町村及第三條ノ規定ニ依リ勅令ヲ以テ指定スル者ノ負擔ニ係ルモノニ對シテハ其ノ十二分ノ七ヲ補助ス

第二十三條 救護法第二十六條乃至第二十七條ノ二ノ規定ハ事業者ガ道府縣又ハ市町村ナルトキハ其ノ負擔シタル醫療又ハ助產ニ要シタル費用ニ之ヲ準用ス

第二十四條 道府縣、市町村其ノ他ノ公團體ハ左ニ掲グ土地又ハ建物ニ對シテハ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ズ但シ有料ニテ之ヲ使用セシム者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第二十五條 本法ニ依リ受ケシムベキ醫療及助產ノ範圍、程度及方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 第十一條第一項第二號ニ掲グ者ニシテ醫療券ニ依ル醫療又ハ助產ヲ受クルモノ死亡シタル場合ニ於テ市町村長埋葬ヲ行フ者ニ對シ埋葬ニ要スル費用ヲ給スルコト適當ナリト認ムルトキ又ハ埋葬ヲ行フ者ナシト認ムルトキハ死亡シタル者ハ其ノ埋葬ニ付テハル費用ヲ給スルコトヲ得ル者ヲ除ク但シ急迫ノ事情アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ)

第二十七條 地方長官ハ命令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ其ノ者ノ發行スベキ醫療券ニ付其ノ數、地域等ヲ定メ割當ヲ爲スベシ

第二十八條 地方長官ハ前條ニ掲グ者ノ認定ニ依リ事業者ニ對シ其ノ者ノ發行スベキ醫療券ニ付其ノ數、地域等ヲ定メ割當ヲ爲スベシ

第二十九條 地方長官ハ前條ニ掲グ者ノ認定ニ依リ施設又ハ附帶事業ノ讓渡ヲ受クル爲要スル費用ニ付補助スルコトヲ得

第三十條 地方長官ハ市町村長ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ事務ノ一部ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十一條 救護法第二十六條乃至第二十七條ノ二ノ規定ハ事業者ガ道府縣又ハ市町村ナルトキハ其ノ負擔シタル醫療又ハ助產ニ要シタル費用ニ之ヲ準用ス

第三十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第三十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第三十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第三十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第三十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第三十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第三十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第四十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第四十一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第四十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第四十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第四十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第四十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第四十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第四十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第四十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第四十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第五十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第五十一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第五十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第五十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第五十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第五十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第五十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第五十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第五十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第六十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第六十一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第六十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第六十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第六十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第六十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第六十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第六十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第六十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第六十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第七十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第七十一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第七十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第七十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第七十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第七十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第七十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第七十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第七十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第七十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第八十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第八十一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第八十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第八十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第八十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第八十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第八十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第八十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第八十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第八十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第九十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第九十一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第九十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第九十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第九十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第九十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第九十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第九十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第九十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第九十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百十一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百二十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百二十一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百二十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百二十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百二十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百二十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百二十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百二十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百二十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百二十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百三十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百三十一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百三十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百三十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百三十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百三十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百三十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百三十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百三十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百三十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百四十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百四十一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百四十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百四十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百四十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百四十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百四十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百四十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百四十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百四十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五十一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百六十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百六十一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百六十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百六十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百六十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百六十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百六十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百六十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百六十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百六十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百七十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百七十一条 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百七十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百七十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百七十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百七十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百七十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百七十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百七十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百七十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百八十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百八十一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百八十二條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百八十三條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百八十四條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百八十五條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百八十六條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百八十七條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百八十八條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百八十九條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百九十條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百九十一條 事業者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第一百九

トシテ醫療保護事業又ハ施設若ハ附
帶事業ノ用ニ供スル土地

告ヲ爲サシメ、書類帳簿ノ提出ヲ命ジ、實地ニ就キ業務若ハ會計ノ狀況ヲ調査シ又ハ醫療保護事業、施設若ハ附帶事業ニ關シ必要ナル指示ヲ爲スコトヲ得但シ主務大臣ノ指定スル事業者ニ對シテハ主務大臣及地方長官之ヲ行フ
第二十六條 第五條ノ規定ニ依ル事業者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ主務大臣ハ同條ノ規定ニ依ル認可ヲ取消スコトヲ得

一 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令
又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ
ルトキ
二 補助ノ條件ニ違反シタルトキ
三 不正ノ手段ヲ以テ補助金ノ交付ヲ
受ケタルトキ

第二十八條 詐僞其ノ他ノ不正ノ手段ニ
依リ醫療券ニ依ル醫療若ハ助產ヲ受ケ
又ハ受ケシメタル者ハ三月以下ノ懲役
又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 町村制ヲ施行セザル地ニ於
テハ本法中町村ニ關スル規定ハ之ヲ町
村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル
規定ハ之ヲ町村長ニ準ズベキモノニ適

第三十一条 本法施行ノ際第三條及第四條ニ掲タル者ニ非ザル者ニシテ現ニ醫療保護事業ヲ行フモノ又ハ其ノ事業ヲ承継シタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ三月間ヲ限リ引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得
前項ノ者前項ノ期間經過後引續キ其ノ事業ヲ行ハントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ期間内ニ第五條ノ規定ニ依ル認可ヲ申請スペシ
前項ノ規定ニ依ル認可ノ申請ヲ爲シタル者ハ其ノ申請ニ對スル認可又ハ不認可ノ處分アル迄引續キ其ノ事業ヲ行フコトヲ得

第三十二條 救護法中左ノ通改正ス
第六條中「病院」ヲ削ル

第十條第一項第一號及第三號ヲ左ノ如ク改ム

二 削除

三 削除

第三十三條 母子保護法中左ノ通改正ス
第六條第一項中「養育扶助、生業扶助及醫療」ヲ「養育扶助及生業扶助」ニ改ム

〔國務大臣金光庸夫君演壇ニ登ル〕
○國務大臣（金光庸夫君） 只今議題トナリ
マシタ法案中、先づ貸家組合法案、住宅營團法案ニ付、其ノ提案ノ理由ヲ御説明申上
ゲマス、近時益々深刻トナツテ參リマシタ住宅難ハ、勞務者其ノ他一般國民ノ生活ヲ脅スノミナラズ、軍需ノ充足、生産力擴充等ノ重要產業ノ要員充足ヲ阻礙シ、又勞務者ノ作業能率及健康ニ惡影響ヲ及ボス等、高度國防國家體制ノ建設上、好マシカラザル事態ヲ招來致シテ居ルノアリマス、政府ハ夙ニ昨年八月以来、應急的措置トシテ勞務者住供給計畫ヲ樹立シ、事業主ニ對シ其ノ使用スル労務者ノ住宅建設ヲ勸奨シ、必要資材及資金調達ノ援助ヲモ致シ、又地方公共

團體ニ對シテハ損失補償制度ヲ設ケマシテ、
労務者住宅建設ヲ獎勵シテ參ツクノデアリマス
ス、併シ斯カル應急的措置ノミデハ、現下
ノ深刻ナル住宅難ヲ早急ニ打開致シマスコ
トハ困難ト考ヘラレマシタノデ、昨年厚生
省ニ住宅對策委員會ヲ設ケマシテ、種々研
究ヲ遂ゲ、根本的對策ノ樹立ヲ圖ツテ參ツク
ノデアリマス、惟ニ現下ノ深刻ナル住宅
難ノ打開ヲ圖リマスガ爲ニハ、住宅ノ供給
ヲ急速ニ増加スルコトヲ以テ根本對策ト致
シマスコトハ、申ス迄モナイ所デアリマス
之ガ爲ニハ所謂民間ノ貸家投資家ニ依ル貸
家供給ノ促進ヲ圖リマスコトガ、我ガ國從
來ノ慣行ニモ適シ、早急ニ住宅供給ヲ増大
スル近道デアルト考ヘラレマスノデアリマ
ス、然ルニ是等ノ貸家投資家ハ、現在ニ於キ
マシテハ個々ニ分散シテ其ノ間ニ何等ノ組織
ヲ持ツテ居リマセヌ爲、現時ノ如キ實情ノ下
デハ、建築用資材ノ取得等ニ付種々ノ困難モ
アリ、貸家建設ガ阻止サレテ居ルト考ヘラレ
ルノデアリマス、仍テ今回貸家組合法ヲ制定シ
テ、是等ノ貸家投資家ヲ組織化スルコト致
シマシテ、政府ヨリ之ニ建築用資材ノ取得等
ニ付便宜ヲ與ヘ、以テ貸家供給ノ促進ヲ期
スルコトニ致シタ次第デアリマス、尙貸家組合
ニハ、賃貸條件ノ統制其ノ他經營ノ適正ヲ
圖ルコトヲ併せ行ハシムルコトニ致シテ居
ルノデアリマス、更ニ又右施策ト併行致シ
マシテ、此ノ際急速大量ニ住宅供給ヲ圖リ
マスコトモ、現下ノ住宅難打開ノ爲緊要ノ
コトデアルト考ヘラレマスノデ、貸家組合
ト並ンデ住宅營團法ヲ制定シ、政府出資ニ
係ル住宅營團ナル特殊ノ法人ヲ設立スルコ
ト致シタノデアリマス、此ノ營團ニ依リ、
住宅營團が設立ヲ見マシタ曉ハ、量ノ問題
ノミナラズ、質ノ問題、例ヘバ國民住居標準

準ノ確立、住宅型式ノ規格化、或ハ國土計畫又ハ地方計畫ニモ照應セル模範的ナル住宅街ノ集團的建設、或ハ火災等ノ場合ニ於ケル住宅復興事業ノ企畫實施等、住宅政策上各般ノ問題ノ解決ニモ資シ得ルモノト存ズルノデアリマス、惟フニ住居ハ國民生活ノ本據デアリマスカラ、住宅難ガ深刻トナツテ參リマシテ住ムニ家ナキノ憂ヲ生ゼシムルガ如キコトガアリマシテハ、生活不安ヲ醸スノ最大原因トナルノデアリマシテ、此ノ問題ノ解決ハ刻下喫緊ノ要務ト存ズルノデアリマス、仍テ政府ハ茲ニ提案致シマシタニ二法案ヲ骨子トシ、其ノ他萬般ノ施策ヲ講ジマシテ、國民各人ガ一日ノ勞ヲ休メ又明日ノ奉公ニ備ヘテ清新ノ氣ヲ養ヒ得ル一家安全ノ場所ヲ確保シタイト存ズル次第デアリマス、次ニ醫療保護法案ニ付テ提案ノ理由ヲ説明致シマス、時局下ニ於キマシテハ、一般庶民層ノ生活ヲ確保シ、特ニ貧困ノ爲生活困難ナル者ニ對スル醫療保護制度ニハ、救護法及母子保護法等ノ法律ニ依ルモノノ外、昭和七年以來政府ニ於テ實施シテ居リマス時局匡救醫療救護事業、並ニ地方公共團體、恩賜財團濟生會、其ノ他各種社會事務團體ニ依ルモノ等、各種ノモノ萬全ヲ期シマスルコトハ緊要ノコトト存ズルノデアリマス、我が國現時ノ醫療保護制度ニハ、救護法及母子保護法等ノ法律ニ依ルモノノ外、昭和七年以來政府ニ於テ實施シテ居リマス時局匡救醫療救護事業、並ニ地方公共團體、恩賜財團濟生會、其ノ他各種社會事務團體ニ依ルモノ等、各種ノモノガアリマスガ、凡ソ貧困ノ爲生活困難ニシテ醫療又ハ助産ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ、普ク法ノ徹底サレテ居ナイ憾ミガアルノミナラズ、其ノ醫療内容ニ不十分ナルガアリ、又受療ノ手續、方法其ノ他ニ於キマシテモ遺憾ノ點ガ存スル等、改善ヲ要スル點ガ多々アルノデアリマス、而シテ是等現行醫療保護制度ノ不備缺陷ヲ是正シマスル爲ニハ、現行ノ諸制度ヲ其ノ儘ニ存置シテ、單ニ行政的措置ヲ以テスルノミデハ因難ト考ヘラレマンシタノデ、茲ニ新タニ醫

民勞務手帳ニ付ル證明書（以下證明書ト稱ス）ヲ交付スルコトヲ得
證明書ハ之ヲ國民勞務手帳ト看做ス
第二項ニ定ムルモノノ外證明書ニ關シ
必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十四條 國民勞務手帳以外ノ手帳ニハ
國民勞務手帳ナル名稱ヲ用フルコトヲ
得ズ

第十五條 従業者、從業者タラントスル

者又ハ使用者ハ國民勞務手帳ニ關シ必

要アルトキハ從業者又ハ從業者タラン

トスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌

スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ

證明ヲ求ムルコトヲ得

從業者ハ國民勞務手帳ニ記載セラレタ

ル事項ニ關シ使用者ニ對シ無償ニテ證

明ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 厚生大臣、地方長官又ハ國民

職業指導所長必要アリト認ムルトキハ

使用者又ハ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケ

タル者ニ出頭ヲ求メ又ハ其ノ者ヨリ報

告ヲ徵スルコトヲ得

厚生大臣、地方長官又ハ國民職業指導

所長必要アリト認ムルトキハ當該官吏

ヲシテ第一條ニ掲タル事業ノ場所ニ臨

檢査シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ

物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢

検査ゼンマル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ

示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ

一年以下ノ徵役又ハ千圓以下ノ罰金ニ

處ス

一 第三條、第五條第一項又ハ第十一

一條ノ規定ニ違反シタル者

二 詐偽其ノ他ノ不正行爲ヲ以テ國民

勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者

三 自己ノ國民勞務手帳ヲ他人ヲシテ

民勞務手帳ニ付ル證明書（以下證明書ト稱ス）ヲ交付スルコトヲ得
證明書ハ之ヲ國民勞務手帳ト看做ス
第二項ニ定ムルモノノ外證明書ニ關シ
必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第十四條 國民勞務手帳以外ノ手帳ニハ
國民勞務手帳ナル名稱ヲ用フルコトヲ
得ズ

第十五條 従業者、從業者タラントスル

者又ハ使用者ハ國民勞務手帳ニ關シ必

要アルトキハ從業者又ハ從業者タラン

トスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌

スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ

證明ヲ求ムルコトヲ得

從業者ハ國民勞務手帳ニ記載セラレタ

ル事項ニ關シ使用者ニ對シ無償ニテ證

明ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 厚生大臣、地方長官又ハ國民

職業指導所長必要アリト認ムルトキハ

使用者又ハ國民勞務手帳ノ交付ヲ受ケ

タル者ニ出頭ヲ求メ又ハ其ノ者ヨリ報

告ヲ徵スルコトヲ得

厚生大臣、地方長官又ハ國民職業指導

所長必要アリト認ムルトキハ當該官吏

ヲシテ第一條ニ掲タル事業ノ場所ニ臨

檢査シ業務ノ狀況又ハ帳簿書類其ノ他ノ

物件ヲ検査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢

検査ゼンマル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ

示ス證票ヲ携帶セシムベシ

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ

一年以下ノ徵役又ハ千圓以下ノ罰金ニ

處ス

一 第三條、第五條第一項又ハ第十一

一條ノ規定ニ違反シタル者

二 詐偽其ノ他ノ不正行爲ヲ以テ國民

勞務手帳ノ交付ヲ受ケタル者

三 自己ノ國民勞務手帳ヲ他人ヲシテ

得ズ

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ

五百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ

處ス

一 第四條、第五條第二項、第十條又

八第十四條ノ規定ニ違反シタル者

者

二 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ

國民勞務手帳ヲ提出又ハ返納セザル

者

三 第九條ノ規定ニ違反シ記載若ハ報

告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ記載若ハ報告ヲ

爲シタル者

四 第十六條第一項ノ規定ニ違反シ出

頭ニ應ゼズ又ハ報告ヲ怠リ若ハ虚偽

ノ報告ヲ爲シタル者

五 第十六條第二項ノ規定ニ依ル當該

官吏ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨げ又ハ忌

避シタル者

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル

能力申告令ニ依ル要申告者ガ同令ニ

基キ交付ヲ受ケタル職業能力申告手帳

ハ之ヲ國民勞務手帳ト看做ス

第七條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勒令ヲ以テ

之ヲ定ム

第八條 行政官廳又ハ保險給付ヲ受クベ

キ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者

ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又

ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求

ムルコトヲ得

第九條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依

リ被保險者ヲ使用スル事業主ヲシテ其

ノ使用スル者ノ異動及報酬ニ關シ報告

ヲ爲サシメ、文書ヲ提示セシメ其ノ他

ノ勞働者年金保險ノ施行ニ必要ナル事

務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十條 行政官廳ハ必要アリト認ムルト

キハ被保險者ノ異動及報酬ニ保險給

付ノ決定ニ關シ當該官吏ヲシテ被保險者

又ハ被保險者タリシ者ノ勤務場所ニ就

キ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ帳簿書

類其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

スベシ

第十一條 保險料ヲ滯納スル者アルトキ

ハ行政官廳公期限ヲ指定シテ之ヲ督促

前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合

ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手

數料及延滞金ヲ徵收ス

第十二條 本法中使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ工業主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑄業ニ在リテハ鑄業

權者ニ、鑄業代理人アル場合ニ於テハ鑄業代理人ニ之ヲ適用ス

ハ之ヲ受クル權利ハ五年ヲ經過シ

シタルトキ、養老年金、廢疾年金、遺

族年金、脫退手當金又ハ第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條、

第四十七條若ハ第五十一條ノ規定ニ依

ル一時金ヲ受クル權利ハ五年ヲ經過シ

タルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル

令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ本法

ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外民法

ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條 勞働者年金保險ニ關スル書類ニ

ハ印紙稅ヲ課ズ

第八條 行政官廳又ハ保險給付ヲ受クベ

キ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者

ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又

ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求

ムルコトヲ得

第九條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依

リ被保險者ヲ使用スル事業主ヲシテ其

ノ使用スル者ノ異動及報酬ニ關シ報告

ヲ爲サシメ、文書ヲ提示セシメ其ノ他

ノ勞働者年金保險ノ施行ニ必要ナル事

務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十條 行政官廳ハ必要アリト認ムルト

キハ被保險者ノ異動及報酬ニ保險給

付ノ決定ニ關シ當該官吏ヲシテ被保險者

又ハ被保險者タリシ者ノ勤務場所ニ就

キ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ帳簿書

類其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

スベシ

第十一條 保險料ヲ滯納スル者アルトキ

ハ行政官廳公期限ヲ指定シテ之ヲ督促

前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合

ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手

數料及延滞金ヲ徵收ス

ノ定ム

第五條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金

ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及

濟疾手當金ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過

シタルトキ、養老年金、廢疾年金、遺

族年金、脫退手當金又ハ第三十三條、第三四十

四十七條若ハ第五十一條ノ規定ニ依

ル一時金ヲ受クル權利ハ五年ヲ經過シ

タルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル

令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ標準報

酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之

スベシ

第十一條 保險料ヲ滯納スル者アルトキ

ハ行政官廳公期限ヲ指定シテ之ヲ督促

前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合

ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手

數料及延滞金ヲ徵收ス

スベシ

第十一條 保險料ヲ滯納スル者アルトキ

第一項ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者
其ノ指定ノ期限迄ニ保険料其ノ他本法

四 船員保険ノ被保険者
五 帝國臣民ニ非ザル者
六 前各號ニ掲グル者ノ
指定期間者

六、前各號ニ掲タル者ノ外勅令ヲ以テ
指定スル者

者ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視
總監以下同ジ）ノ認可ヲ受ケ勞働者年

金保險ノ被保險者ト爲ルコトヲ得
一 前條第一號、第二號又ハ第三號ノ

規定ニ該當スル者

二 健康保険法第十四條第一項第二號
ノ事業ニ使用セラルル者

三 前二號ニ掲タルモノノ外敕令ヲ以テ指定スル事業ニ使用セラル者

四 前條ノ工場、事業場又ハ事業ニ附
屬スル事業及前二號ノ事業ニ附屬ス

ル事業ニ使用セラルル者
前条第四項乃至第六項ノ規定、前項ノ

前備算四號刀至第六號ノ規定ハ前項ハ
場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ認可ヲ申請スルニハ事業主ノ
同意ヲ得ルコトヲ要ス

第十八條 第十六條ノ工場、事業場又ハ
事業方左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リ

タルトキハ其ノ際同條ノ規定ニ依ル被

業ニ使用セラルル者ニ付テハ前條ノ認

可アリタルモノト看做ス

十人未満使用スル工場、事業場又ハ
事業ト爲ルニ至リタルトキ

二 第十六條第二號ノ規定ニ依リ指定
ハ、ニ二場、事美易ニ、事美、爲シテ

スル工場事業場又ハ事業ト爲ルニ至リタルトキ

三 前條第一項第二號、第三號又八第
四號ノ事業ト爲ルニ至リタルトキ

第十九條 第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタ

ル又ハ同條但書ノ規定ニ該當セザルニ至リタル日、萬十七條ノ規定ニ依レ

卷之三十一 第一十節

第二十四條 被保險者タリシ期間ノ計算

第三回 雷雨夜驚心 神魔鬥法

第三章 保險給付及福祉施設

第二十條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル被
保險者死亡シタル場合及日本ノ國籍ヲ
失ヒタル場合ニ之ヲ準用ス

前項但書ノ規定ハ第五十一條ノ規定ニ
依リ差額ノ支給ヲ受ケタル場合ニ之ヲ
準用ス

一 脱退手當金ノ支給ヲ受ケタルトキ
ハ 其ノ計算ノ基礎ト爲リタル期間
二 命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外
同一ノ事業主ノ工場、事業場若ハ事業
業又ハ同一ノ工場、事業場若ハ事業
ニ被保険者トシテ引續キ使用セラレ
タル 實期間六月未満ナルトキハ其ノ
期間

被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後ニ其ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シテ保險給付ヲ爲ス場合ニ於テハ前後ノ被保險者タリシ期間ハ之ヲ合算ス但シ左ニ掲グル期間ハ之ヲ合算セズ

ハ被保険者ノ資格ヲ取得シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ資格ヲ喪失シタル月ノ前月ヲ以テ之ヲ止ム但シ十六日以後ニ於テ被保険者ノ資格ヲ取得シタルトキハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ計算シ十六日以後ニ於テ被保険者ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ被保険者タリシ期間ニ加算ス

トキハ爾咎廢疾年又ヲ支給セズ

第四十二條 養老年又ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ廢疾手當金ヲ支給セズ

第四十三條 第三十五條ノ規定ハ廢疾年金ノ支給ニ關シ之ヲ準用ス

第四節 遺族年金

第四十四條 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ十年間遺族年金ヲ支給ス

第四十五條 遺族年金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル金額トス

一 養老年金又ハ廢疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ支給セラル養老年金又ハ廢疾年金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

二 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ十年間遺族年金ヲ支給ス

第三十五條 遺族年金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル金額トス

一 養老年金又ハ廢疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ支給セラル養老年金又ハ廢疾年金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

二 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ十年間遺族年金ヲ支給ス

第三十五條 遺族年金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル金額トス

一 養老年金又ハ廢疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ十年間遺族年金ヲ支給ス

第三十五條 遺族年金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル金額トス

ノ支給ヲ受ケタル場合ニ在リテハ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金又ハ廢疾年金ト其ノ遺族ガ其ノ者ノ死亡ニ關シ支給ヲ受ケタル遺族年金トノ合算額が養老年金又ハ廢疾年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ満タザルトキハ其ノ差額

ノ差額

ニルコトヲ得ズ
第五十條 癡疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ脫退手當金ヲ支給セズ

第五十一條 癡疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ脱退手當金ヲ支給セズ

第五十二條 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ十年間遺族年金ヲ支給ス

第五十三條 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ十年間遺族年金ヲ支給ス

第五十四條 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ十年間遺族年金ヲ支給ス

第五十五條 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ十年間遺族年金ヲ支給ス

第五十六條 政府ハ被保險者、被保險者ニ對シテハ養老年金、廢疾年金ヲ支給セズ

第五十七條 國庫ハ保険給付ニ要スル費用ニ付勤令ノ定ムル所ニ依リ坑内夫タシタル際支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ脱退手當金ノ額ニ満タザルトキハ其ノ差額ヲ支給ス

第五十八條 政府ハ勞働者年金保險事業ニ要スル費用ニ充ツル爲保険料ヲ徵收トヲ得

第五十九條 被保險者及被保險者ヲ使用スル事業主ハ各保險料額ノ二分ノ一ヲ負擔ス但シ第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第六十條 事業主ハ其ノ使用スル被保險者ノ負擔スベキ保險料ヲ納付スル義務ヲ負フ但シ第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ全額ヲ負擔ス

第六十一條 事業主ハ勤令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ニ依リ納付スペキ保險料ヲ被保險者ニ支拂フベキ繩酬ヨリ控

ト認ムルトキハ其ノ身分關係ノ異動及廢疾狀態ノ繼續ノ有無ニ關シ其ノ者ヲシテ必要ナル書類ヲ提出セシマルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ書類ヲ提出セザル者ニ對シテハ養老年金、廢疾年金又ハ遺族年金ノ支給ヲ一時差止ムルコトヲ得

第五十六條 政府ハ被保險者、被保險者ニ對シテハ養老年金、廢疾年金又ハ遺族年金ノ支給ヲ一時差止ムルコトヲ得

第五十七條 福祉施設

第五十八條 政府ハ被保險者、被保險者ニ對シテハ養老年金、廢疾年金又ハ遺族年金ノ支給ヲ一時差止ムルコトヲ得

第五十九條 福祉施設

第五六十條 政府ハ被保險者、被保險者ニ對シテハ養老年金、廢疾年金又ハ遺族年金ノ支給ヲ一時差止ムルコトヲ得

第五十七條 福祉施設

第五十八條 政府ハ被保險者、被保險者ニ對シテハ養老年金、廢疾年金又ハ遺族年金ノ支給ヲ一時差止ムルコトヲ得

第五十九條 福祉施設

除スルコトヲ得

九
八
三
丁

第五章 審査ノ請求、訴願及訴訟
第六十二条 保険給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ中央社會保險審査會ニ審査ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ通常裁判所ニ訴ヲ提起スルコトヲ得
前項ノ審査ノ請求ハ時效ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス
第六十三条 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第十一條ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第六十四条 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ノ賦課又ハ徵收ノ處分ニ關シ訴願ノ提起アリタルトキハ主務大臣ハ中央社會保險審査會ノ審査ヲ經テ裁決ヲ爲スベシ
第六十五条 本法ニ規定スルモノノ外中央社會保險審査會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第六十六条 審査ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分ノ通知又ハ決定書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ此ノ場合ニ於テ審査ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第一百五十八條第一項及第一百五十條ノ規定ヲ準用ス
第六章 罰則
第六十七条 正當ノ理由ナクシテ第十條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス
第六十八条 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ若ハ文書ノ提示ヲ爲サズ又ハ其ノ他必要ナル事務ヲ行ハザル者ハ百圓以下

第六十九條 事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出でザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ズ

第七十條 第六十八條ノ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附 則

第七十一條 本法施行ノ期日ハ保険給付及費用ノ負擔ニ關スル規定並ニ其ノ他ノ規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十二條 保険給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ現ニ使用セラル専業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ現ニ使用セラル専業主ノ工場、事業場若ハ事業ニ同日迄引續キ第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スル者トシテ五年以上使用セラレタル者ニシテ同日ニ於テ同條ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタルモノガ被保險者タリシ期間二十年未滿ニシテ五十歳(鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ同日ニ於テ當時坑内作業ニ從事スル者トシテ使用セラル専業主ニ在リテハ四十五歳)ヲ超エ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ對スル脱退手當金ノ支給條件及其ノ額ニ付テハ第四十八條及第四十九條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得但シ第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

保険給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ五十歳(鑛業法ノ適用ヲ

別表		被保險者タリシ期間										日 敷	
		三 年 以 上	四 年 以 上	五 年 以 上	六 年 以 上	七 年 以 上	八 年 以 上	九 年 以 上	十 年 以 上	十一 年 以 上	百 五 十 二	百 三十五	
一	年	上	百	二	十	九	十	五	一	百	五	一	
十	一	年	以	上	百	三	十五	二	十	一	百	五	十
十一	年	以	上	百	三	十五	二	十	一	百	五	十	

被保險者タリシ期間	日 數
十二年以上	百六十五日
十三年以上	百八十日
十四年以上	二百日
十五年以上	二百二十日
十六年以上	二百四十日
十七年以上	二百六十日
十八年以上	二百八十日
十九年以上	三百日

別表

被保險者タリシ期間	日 數	被保險者タリシ期間	日 數
三 年 以 上	四 十 日	十二年以上	百六十五日
四 年 以 上	五 十 日	十三年以上	百八十四日
五 年 以 上	六 十 日	十四年以上	二百零九日
六 年 以 上	七十五日	十五年以上	二百二十九日
七 年 以 上	九十日	十六年以上	二百四十四日
八 年 以 上	一百五日	十七年以上	二百六十九日
九 年 以 上	一百二十日	十八年以上	二百八十四日
十 年 以 上	一百三十五日	十九年以上	三百零九日
十一 年 以 上	一百五十日	二十一年以上	三百三十五日

國務大臣(金光廣次君)只今講題トナリ
マシタ國民勞務手帳法案ニ付テ提案ノ理由ヲ説明申上ゲマス、我ガ國現下ノ情勢ニ鑑
ミマシテ、軍需生産ノ確保及生産力擴充計
畫ノ遂行ニ遺憾ナキヲ期シマスル爲ニハ、
勞務ノ適正ナル配置ヲ行フコトガ極メテ緊
要デアリマス、而シテ之ガ爲ニハ、勞務配
置ノ現状ヲ明カニ致シマスルト共ニ、其ノ
移動ヲ規制スル必要ガアルノデアリマス、
政府ニ於キマシテハ此ノ點ニ關シマシテ各
般ノ方策ヲ講ジテ參ッタノデアリマスガ、時
局ノ進展ハ更ニ一層之ガ擴充強化ヲ必要ト
スルニ至ツタノデアリマス、仍テ今回勞務移
動ヲ規制スルノ基礎ヲ確立シテ、移動防止
ノ完璧ヲ期スルト共ニ、併セテ時局下益々重
要性ヲ加ヘテ參リマスル賃金統制其ノ他ノ
勞務統制ノ實施及び勞務管理ニ資スル目的
ヲ以チマシテ茲ニ本法案ヲ提出スルニ至ツ
タ次第デアリマス、而シテ本法案ハ、工場
鑛山等ニ使用セラレマス技術者及勞務者ニ
付テ、其ノ身分、經歷、技能程度、賃金等ヲ
記載セル國民勞務手帳ヲ所持スペキ旨ヲ規
定致シマスト共ニ、本手帳ニ依リマシテ、
其ノ使用及就業ニ付必要ナル規制ヲ行フ旨
ノ規定ヲ設ケタノデアリマス、次ニ勞働者
年金保険法案ノ提案理由ヲ説明致シマス、
現下ノ情勢ニ鑑ミマスルニ、生産力ノ擴充
ハ時局下最大ノ急務デアリマシテ、從ツテ其
ノ基本トナルベキ勞働力ノ保全増強ヲ圖リ、
產業能率ノ増進ヲ期シマスルコトハ喫緊ノ
要務ト存ズルノデアリマス、而シテ之ガ爲
テ其ノ職務ニ精勵セシメマスル方策ヲ講ズ
施策スペキ事項ハ種々アルコト存ゼラレ
マスガ、就中生産擴充ノ第一線ニ立ツテ懸命
ノ努力ヲ續ケテ居る勞働者ニ對シ、安ンジ
リマス、惟フニ勞働者ハ、自己ノ勞働能力

改正法律案 第一讀會
日本製鐵株式會社法中改正法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議
院法第五十四條ニ依リ及送付候也
昭和十六年二月十五日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿
衆議院議長 小山 松壽

日本製鐵株式會社法中改正法律案
日本製鐵株式會社法中左ノ通改正ス
第三條ニ左ノ一項ヲ加フ
勅令ノ定ムル法人ニシテ特ニ主務大臣
ノ許可ヲ受ケタルモノハ前項ノ規定ニ
拘ラズ日本製鐵株式會社ノ株主ト爲ル
コトヲ得
第五條ノ二 日本製鐵株式會社ハ商法第
二百九十七條ノ規定ニ依ル制限ヲ超エ
テ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ
總額ハ拂込ミタル株金額ノ三倍ヲ超ニ
ルコトヲ得ズ
社債ヲ募集スル場合ニ於ケル株主總會
ノ決議ハ資本ノ半額以上ニ當ル株主出
席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲
スコトヲ得
第五條ノ三 日本製鐵株式會社ノ社債權
者ハ同會社ノ財產ニ付他ノ債權者ニ先
チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ
有ス
前項ノ規定ハ民法上ノ一般ノ先取特權
ノ行使ヲ妨グルコトナシ
第五條ノ四 日本製鐵株式會社第二回以
後ノ株金ノ拂込ヲ爲サシメ又ハ社債ヲ
募集セントスルトキハ主務大臣ノ許可
ヲ受クベシ
第十條中「社債ノ募集、」ヲ削ル
第二十二條中第一號ヲ第三號トシ第二號
ヲ第四號トシ第一號及第一號トシテ左ノ
二號ヲ加フ
一 第五條ノ二ノ規定ニ違反シ社債ヲ
募集シタルトキ

二 第五條ノ四ノ規定ニ違反シ許可ヲ
受ケズシテ株金ノ拂込ノ催告又ハ社
債ノ募集ヲ爲シタルトキ
第二十四條 削除
附 則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
〔政府委員小島新一君演壇ニ登ル〕
○政府委員(小島新一君) 只今議題ト相成
リマシタ日本製鐵株式會社法中改正法律案
ノ提案ノ理由ヲ御説明申上ゲマス、現下ノ
時局ニ鑑ミマシテ、鐵鋼ノ生産力ノ維持擴
充ヲ圖リマスルコトハ、國防上茲ニ產業上
喫緊ノ要務デアリマスルコトハ、茲ニ改メ
テ申上ゲル迄モナイ所デアリマス、日本製
鐵株式會社ハ、國策會社ト致シマシテ、我ガ
國ニ於ケル銹鐵ノ約八割、鋼材ノ約四割ヲ
生産致シテ居リマスルガ、今後ノ鐵鋼生産
力擴充計畫ノ遂行ニ當リマシテモ、常ニ同
社ヲ以テ之ガ推進力タラシムルノ必要ガア
ルト思料致シテ居ル次第デアリマス、而シ
テ之ガ爲ニハ將來莫大ナル資金ヲ要スペキ
コトハ明カデアリマスノデ、本案ニ於キマシ
テハ、右所要資金ノ調達ヲ便ナラシムル如
ク日本製鐵株式會社法ニ必要ナル改正ヲ加
フルコトド致シタ次第デアリマス、尙鐵鋼
政策ハ、日滿支ヲ通ジ一贯セル方針ニ基
キ、強力ニ之ヲ遂行スルノ要ガアルノデア
リマスルガ、之ガ爲ニハ日滿支各地ノ主要
鐵鋼業者相互間ノ關係ヲ益緊密ナラシメ
マシテ、以テ右ノ趣旨ノ達成ヲ期スル必要
ガアリマスノデ、併セテ此ノ點ニ關シマシ
テモ所要ノ改正ヲ行フコトト致シタ次第デ
アリマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛ア
ラムコトヲ希望致シマス
○子爵戸澤正二君 只今上程セラレマシタ
日本製鐵株式會社法中改正法律案ハ、重要
機械製造事業法案外一件ノ特別委員ニ、併

○子爵秋田重季君賛成
動議ニ御異議ハゴザイマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 戸澤子爵ノ
ト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ

恩給法中改正法律案、日程第九、
恩給法中改正法律案、日程第十、義務教育
費國庫負擔法中改正法律案、日程第十一、
小學校令ノ改正ニ伴フ恩給法等ノ規定ノ整
理ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付
第一讀會、是等ノ三案ヲ一括シテ議題ト爲
スコトニ御異議ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシト呼フ者アリ」〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ
ト記メマス、村瀬法制局長官

昭和十六年二月十五日

衆議院議長 小山 松壽

貴族院議長伯爵松平賴壽殿

恩給法中改正法律案

恩給法中改正法律案

恩給法中左ノ通改正ス

第二十一條第一項第一號中「後備役」ヲ
削ル

第二十三條第二號中「看守、女監取締」ヲ
「副看守長、看守」ニ改ム

第二十五條第四號中「又ハ警部補巡査若
ハ判任官ノ待遇ヲ受クル消防手ニ就職ス
ルトキ」ヲ「若ハ警部補巡査若ハ判任官ノ
待遇ヲ受クル消防手ニ就職スルトキ又ハ
看守副看守長ニ任シ若ハ副看守長看守ニ
就職スルトキ」ニ改ム

第二十六條第四號中「又ハ他ノ官ヨリ警
部補ニ轉シタルトキ」ヲ「若ハ他ノ官ヨリ
待遇ヲ受クル消防手ニ就職スルトキ又ハ
看守副看守長ニ任シ若ハ副看守長看守ニ
就職スルトキ」ニ改ム

官ニ轉シ若ハ他ノ官ヨリ副看守長ニ轉シタルトキ」ニ改ム
第四十六條ノ二第一項中「又ハ其ノ公務員カ下士官以下ノ軍人ニシテ退職後三年内ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキ」ヲ削リ同項ノ末尾ニ左ノ如ク加ブ
公務員カ下士官以下ノ軍人ナル場合ニ於テ公務ノ爲永續性ヲ有スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具廢疾ノ程度ニ至ラサルモ勅令ノ定ムル程度ニ達シ退職シタルトキ亦同シ
第六十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム
下士官以下ノ軍人公務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ傷病年金ヲ給セラルルノ程度ニ至ラサルモ勅令ノ定ムル程度ニ達シ退職シタルトキ又ハ退職後三年内ニ勅令ノ定ムル程度ニ達シタルトキハ之ニ傷病賜金ヲ給ス
第八十條第二項中「恩給審査會ニ諮詢ノ上」ヲ削ル
別表第一號表(乙)中〔海軍兵員〕ヲ
別表第五號表乃至第七號表中〔海軍兵員〕ヲ
二改ム
〔海軍兵員〕ニ改ム
附 則
第一條 本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ恩給法別表第一號表(乙)及第五號表乃至第七號表ノ改正規定ハ昭和十五年九月十五日ヨリ之ヲ適用ス
第二條 従前ノ規定ニ依ル後備役ニ在ル者及女監取締ニ付テハ仍從前ノ例ニ依第三條 下士官以下ノ軍人ニシテ公務ノ爲永續性ヲ有スル傷痍ヲ受ケ又ハ疾病

ニ罹り不具廢疾ノ程度ニ至ラザルモ勅令ノ定ムル程度ニ達シ昭和十三年七月七日以後本法施行前退職シタルモ改正前ノ恩給法第四十六條ノ第一項ノ規定ニ依リ傷病年金ヲ給セラレザル者ニ付テハ本法施行後勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病ノ程度ヲ査定シ將來ニ向ツテ之ヲ給ス

第四條 昭和十五年九月十五日ニ陸軍上等兵トシテ在職シタル軍人爾後引續キ在職シ同日以後陸軍兵長ヲ命ゼラレ本法施行前退職シ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ陸軍兵長トシテノ在職年月數ハ恩給法ノ適用ニ關シテハ之ヲ陸軍伍長トシテノ在職年月數ト看做ス

義務教育費國庫負擔法中改正法律案右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十五日

貴族院議長伯爵松平賴壽殿
衆議院議長 小山 松壽

義務教育費國庫負擔法中改正法律案
義務教育費國庫負擔法中左ノ通改正ス

第一條中「市町村立尋常小學校ノ教員代用教員ヲ含ム」ヲ「國民學校職員(勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク)」ニ改ム

第三條及第四條ヲ削ル

附 則

本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行

ス

小學校令ノ改正ニ伴フ恩給法等ノ規定ノ整理ニ關スル法律案
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

昭和十六年二月十五日

貴族院議長 小山 松壽

衆議院議長 小山 松壽

盡業ノ合同ハ最近進捗ヲ見ツ、アルヤウデ
アルガ、政府ハ今後モ之ヲ促進スル方針デ
法定資本金ニ達セザル小規模ノモノガアリ、
無用ノ競争ヲナシ資金原價ヲ高メテ居ル地
方モアルノデ、是等ヲ改善シ、合理的ナ經營
ヲナサシメ基礎ノ強化ヲ圖ル必要ガアルガ、
之ニハ合同ノ方法ニ依ルノガ最モ適當ト認
メラレルノデ、今後モ無盡業會社ノ合同ハ之ヲ促
進スル方針デアル、併シナガラ、地方ノ實情ハ
十分考慮シテ、實情ニ即シテ之ヲ行フ方針デ
アル旨ノ答辯ガアリ、又庶民金庫ト無盡業會社
トヲ聯繫セシムルコトヘ、如何ナル必要ニ基
クモノデアルカトノ問ニ對シ、從來ト雖モ無
盡業會社ハ小口貸付資金ノ融通ヲ受ケル場合
等ニ限リ、預ヶ金ヲナスコトヲ得ルコトト
ナツテ居ツタノデアルガ、元來庶民金庫ト無
盡業會社トハ、庶民階級ヲ對象トシ、庶民金
融ノ圓滑ヲ圖ルコトヲ使命トスルモノデア
ルカラ、相提携シテ其ノ使命達成ニ努メシ
ムベキデアルト認メ、今回ノ改正ニ依リ、
庶民金庫ト無盡業會社トヲ一般的ニ聯繫セシ
ムルコトトシタ旨ノ答辯ガアリマシタ、其
ノ他詳細ハ速記録ニ依リ御覽ヲ願ヒマス、
委員會ハ質問ヲ終了シテ、直チニ討論ニ入
リマシテ、一委員ヨリ賛成ノ意見ヲ述べラ
レ、採決ノ結果、全員一致ヲ以テ原案通り
可決スベキモノト決定致シマシタ、以上甚
ダ簡単デゴザイマスルガ御報告申上ゲマス
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 別ニ御發言
モナケレバ、本案ノ採決ヲ致シマス、本案
ノ第二讀會ヲ開クコトニ御異議ゴザイマセ
ヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ
ト認メマス

○子爵西大路吉光君 贊成
○子爵秋田重季君 贊成
○子爵西大路吉光君 贊成
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ
ト認メマス

○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 本案ノ第二
讀會ヲ開キマス、御異議ガナケレバ、全部
ヲ問題ニ供シマス、本案全部、委員長ノ報
告通り御異議ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ
ト認メマス
○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第三讀
會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス
○子爵秋田重季君 贊成
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 西大路子爵
ノ動議ニ御異議ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ
ト認メマス
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 本案ノ第三
讀會ヲ開キマス、本案全部、第二讀會ノ決
議通り御異議ゴザイマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○副議長(侯爵佐佐木行忠君) 御異議ナイ
ト認メマス、次會ノ議事日程ハ、決定次第
彙報ヲ以テ御通知ニ及ビマス、本日ハ是ニ
テ散會致シマス

午前十一時四分散會

貴族院議事速記錄第十一號正誤

○子爵西大路吉光君 直チニ本案ノ第二讀
會ヲ開カレムコトヲ希望致シマス

八〇頁下段四行目萩ノ欄中末行ノ見島町ハ見島
村ノ誤ニ付訂正ス

